

Title	「新京・農安ペスト流行」(1940年)と731部隊(下)
Sub Title	Unit 731 and the plague epidemic at Noan and Shinkyō in 1940 (II)
Author	松村, 高夫(Matsumura, Takao)
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	2003
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.96, No.3 (2003. 10) ,p.395(121)- 424(150)
JaLC DOI	10.14991/001.20031001-0121
Abstract	<p>1940年に旧満州の首都・新京（現長春）とその近郊・農安でペストが流行したとき、ハルビン郊外平房にあった731部隊は防疫活動のため流行地に駐屯し、部隊の目的である細菌兵器開発のためのデータとして、死者や患者から細菌臓器株や臓器をとり、平房に持ち帰った。高橋正彦ペスト菌報告書は、731部隊の第1部細菌研究部ペスト班の責任者であった高橋が、それら进行分析した結果を示したものであるが、本稿（下）では、新京のペスト流行と、731部隊の防疫活動を記録した2点の史料を抜粋して載せている。</p> <p>When the plague epidemic spread in Shinkyō (now Choshun), the capital of former Manchukuo and Noan, its outskirts, Unit 731 then located in Pingfang on the outskirts of Harbin sent the team of prevention of epidemic.</p> <p>The team collected organs from the dead and patients to Pingfang as data for developing bacillus weapons, which was the goal of the unit.</p> <p>The Plague Bacteria Report, written by Masahiko Takahashi, the leader of Plague squad of 1st Division Bacteria Study Team of Unit 731, reveals the result of such analyses.</p> <p>This study (II) publishes excerpts from two pieces of historical materials, which record the plague epidemic in Shinkyō and the preventative activities of the 731 Unit.</p>
Notes	論説
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-20031001-0121

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

「新京・農安ペスト流行」(1940年)と731部隊(下)

Unit 731 and the Plague Epidemic at Naôn and Shinkyô in 1940 (II)

松村 高夫(Takao Matsumura) ô

1940年に旧満州の首都・新京(現長春)とその近郊・農安でペストが流行したとき、ハルビン郊外平房にあった731部隊は防疫活動のため流行地に駐屯し、部隊の目的である細菌兵器開発のためのデータとして、死者や患者から細菌臓器株や臓器をとり、平房に持ち帰った。高橋正彦ペスト菌報告書は、731部隊の第1部細菌研究部ペスト班の責任者であった高橋が、それらを分析した結果を示したものであるが、本稿(下)では、新京のペスト流行と、731部隊の防疫活動を記録した2点の史料を抜粋して載せている。

Abstract

When the plague epidemic spread in Shinkyô (now Choshun), the capital of former Manchukuo and Noan, its outskirts, Unit 731 then located in Pingfang on the outskirts of Harbin sent the team of prevention of epidemic. The team collected organs from the dead and patients to Pingfang as data for developing bacillus weapons, which was the goal of the unit. The Plague Bacteria Report, written by Masahiko Takahashi, the leader of Plague squad of 1st Division Bacteria Study Team of Unit 731, reveals the result of such analyses. This study (II) publishes excerpts from two pieces of historical materials, which record the plague epidemic in Shinkyô and the preventative activities of the 731 Unit.

「新京・農安ペスト流行」（1940年）と731部隊（下）

松村高夫

要 旨

1940年に旧満州の首都・新京（現長春）とその近郊・農安でペストが流行したとき、ハルビン郊外平房にあった731部隊は防疫活動のため流行地に駐屯し、部隊の目的である細菌兵器開発のためのデータとして、死者や患者から細菌臓器株や臓器をとり、平房に持ち帰った。高橋正彦ペスト菌報告書は、731部隊の第1部細菌研究部ペスト班の責任者であった高橋が、それらを分析した結果を示したものであるが、本稿（下）では、新京のペスト流行と、731部隊の防疫活動を記録した2点の史料を抜粋して載せている。

キーワード

「満州」、731部隊、ペスト、細菌戦、高橋正彦

本稿（上）の高橋正彦ペスト菌論文集の続きとして、本稿（下）ではまず、陸軍軍医学校防疫研究報告第2部第515号と第538号を以下に示す。第514号（本稿（上）に収録）は農安のペストを、第515号は新京のペストを、第538号は731部隊の防疫活動を記録しており、一体をなすものである。

陸軍軍医学校防疫研究報告 第2部 第515号

昭和15年農安及新京ニ発生セル「ペスト」流行ニ就テ

第1編 流行ノ疫学的観察（其ノ2）

新京ノ流行ニ就テ

陸軍軍医学校防疫学教室（主任 増田大佐）

陸軍軍医少佐 高橋正彦

担任指導 陸軍軍医少佐 石井四郎

目 次

緒 言

第1章 患者ノ発生状況及流行状態

第2章 流行ノ疫学的観察

第1節 流行ノ季節的消長

第2節 流行ノ環境衛生学的観察

第1項 新京ニ於ケルペスト関係動物ノ種類及其ノ数量的観察（動物環境）

第2項 新京ニ於ケルペスト関係昆虫ノ種類及其ノ数量的観察（昆虫環境）

第3項 患者発生地域及患者発生家屋ノ環境衛生学的観察（居住環境）

第3節 流行ノ統計的観察

第3章 感染経路ニ関スル考察

第1節 病毒搬入経路ニ関スル考察

第2節 病毒伝播経路ニ関スル考察

総 括

文 献

緒 言

昭和15年9月下旬新京ニペストノ流行発生シタ際ニ患者ノ発生状況及流行状態ヲ調査シ、尚流行発生ト季節トノ関係並ニ環境衛生（動物環境、昆虫環境、居住環境）トノ関係ニ就テ調査シタノデ其等ノ成績ニ就テ報告シ、併セテ感染経路ニ関スル考察ヲ試ミル次第デアル、此等ノ成績ハ防疫業務ヲ実施スル傍ラ得タルモノデアリ、而モ人員ノ関係上系統的ナ調査ガ出来ナカッタノデ極メテ不備ナモノデアルケレドモ、将来ノ此ノ種ノ研究ニ対シ或指針ヲ与ヘルモノト信ジ、茲ニ報告スル次第デアル。(515-2)

第1章 患者ノ発生状況及流行状態

今次流行ニ於テハペストノ流行デアルト判ル迄ニ流行発生後凡ソ1週間ヲ経過シテ来タノデ発生当初ノ真相ヲ知ルコトハ極メテ困難デアツタガ、小池中尉ノ熱心ナ調査ニヨツテ概ネ其ノ全貌ヲ明カニスルコトガ出来タ、今其ニ就テ述ベレバ次ノ如クデアル。

東三條通44番地田島犬猫病院（院主田島義次）傭人王合（同家三女忠子ノ子守）は9月23日朝ヨリ

発病シタノデ翌24日ニ実父ヲ呼出シ、同人ト共ニ寛城子韓家屯ノ自宅ニ帰ラセ療養ニ努メサセタケレドモ翌25日極メテ重篤ナ肺症状ヲ起シテ死亡シタ、続イテ23日ニハ田島義次三女忠子発病シ、27日ニハ王合ト同室ニ居住シテイタ宋丕徳発病シ、28日ニハ同様王合ト同室ニ居住シテイタ韓秀臣発病シ、28日ニハ田島義次二女天津子発病シ、孰レモ体温高ク且一般症状ガ重篤デアツタ、其ノ間忠子ハ市内医師（満〇〔満鉄〕 医院小児科医）ノ診療ヲ受ケタ結果流行性感冒ト診断サレテ治療ヲ受ケテイタガ29日遂ニ死亡シタ、其処デ田島方獣医井〇〔井上〕 一夫ハ予テ懇意ノ間柄デアツタ中央通警察署勤務警尉補渡辺太一ニ29日15.00時頃忠子ノ火葬許可願ノ認可ヲ受ケニ来テ、其ノ時上述ノ状況ヲ渡辺ニ知ラセタ、渡辺ハ犬猫病院ニ発生シタ患者ニ就テ不信ヲ抱イテ居タトコロ同日19.00時頃ニ犬猫病院ノ隣ニ居住シテイル中西興吉（太田安次ノ前室ニ居住シテイルモノ）及葛城誠治（太田安次ノ下ノ室ニ居住シテイルモノ）ノ兩名ガ来テ、田島犬猫病院ニ死亡者及患者ノ多発シテイル状況及犬猫病院ノ隣ニ居住シテイタ太田安次ガ9月23日急ニ発病シ、24日満鉄医院ニ入院シ、次デ陸軍病院ニ入院シタコトヲ詳細ニ通知シ、調査ノ必要ヲ述ベタ、茲ニ於テ渡辺ハ翌30日登庁スルヤ直チニ上述ノ次第ヲ首都警察庁ノ関係上司ニ報告シタ此ノ報ニ接シタ首都警察庁衛生課デハ市衛生試験所ニ上述ノ事ヲ通報シ、尚田島家ニ就テ直接調査シタ結果上述ノ次第ヲ明カニスルコトガ出来タ。

一方太田安次ハ9月23日夕刻発病シ、翌24日ニ満鉄病院ニ至リ内科長〇医師ノ診療ヲ受ケタ上同院ニ入院シタガ、症状ガ重篤デアツタノデ25日18.00時頃陸軍病院ニ転入シタ、其ノ後陸軍病院ニ於テハ病名ノ究明ニ努メルト共ニ看護ニ専心シテイタケレドモ29日朝ヨリハ胸内苦悶ヲ訴エ泡沫状ノ血痰ヲ喀出シ、13.00時遂ニ死亡シタ、併シナガラ此ノ時ニ至ルモ病名ノ決定ガ困難デアツタノデ新京医大ノ山本教授ノ来援ヲ得テ剖検シタ結果脾ノ腫張ヲ認メ肺ニハ肉腫様腫瘍ヲ認メタケレドモ一般ニ炎症所見軽度ニシテ、且各臓器ノ塗擦標本ヲ鏡検シタ結果ニ於テモ病原菌ヲ認メナカツタノデ急性肺炎兼肺臓腫瘍ト病名ヲ決定シタ、併シナガラ不審ノ点ガアツタノデ9月30日朝市衛生研究所ニ肺ペストノ病理所見ヲ問ヒ合ハセ、尚宮城所長ニ太田安次ノ材料ヲ検査シテ貰ヒタイト依頼シタ、宮城所長ハ其ノ時恰モ首都警察庁衛生課ヨリ田島犬猫病院ノ状況ニ就テノ通報ヲ受ケ、早速調査ニ出カケル所デアツタガ、上述ノ如キ陸軍病院ヨリノ依頼ガアツタノデ犬猫病院ニハ医師ノ心得アル庶務長ヲ派シテ事情ヲ調査スル様ニシ、所長ハ直チニ陸軍病院ニ至リ太田安次ノ塗擦標本ヲ検査セルに咽頭ヨリノ塗擦標本ニ2、3箇ノペスト菌類似ノ菌ヲ認メタ、併シナガラ之ノミデハペストト断定シ難キコトヲ述べ、太田安次ノ屍体ヨリ検査材料ヲ新シク採取スルコトヲ陸軍病院阿部中尉ニ依頼シタ、其ヨリ所長ハ16.00時頃田島犬猫病院ニ至リ発病中ノ患者（宋、韓）ヲ診断シ、臨床上ペストト決定シ、首都警察庁衛生課、市衛生処ト連絡協議ノ結果ペスト防疫ヲ開始スルコトニ決シ30日13.00時頃田島犬猫病院一帯ヲ隔離シ、患家付近ノ交通ヲ遮断シ、此ノ状況ヲ民生部保健司、関東軍司令部等ニ通報シタ。

尚診断ヲ確定スルタメニ患者（宋、韓）ヨリ血液塗擦標本ヲ作り衛生試験所ニ持ち帰り鏡検シタケレドモ其ノ標本ヨリハペスト菌ヲ検出スルコトガ出来ナカツタノデ、解剖ノ準備ヲナシテ田島犬

第1表 ペスト患者一覧表

番号	発生場所	氏名	性	年齢	人種	転帰	発病月日	転帰月日	病名	摘要
1	東三條通44田島方	王合	男	13	満	死	9.23	9.25	推定ペスト	死後ペスト判定ス
2	東三條通42	太田○次	男	33	日	死	9.23	9.29	ペスト敗血症	入院死亡
3	室町4丁目7寶昌ビル	藤○君○	女	8	日	死	6.25	10.2	腺ペスト	入院死亡
4	同上	藤○キ○子	女	5	日	死	9.26	9.30	推定ペスト	死後ペスト判定ス
5	東三條通44田島方	田○忠○	女	2	日	死	9.26	9.29	推定ペスト	同上
6	同上	宋○徳	男	23	満	死	9.27	10.1	推定ペスト	同上
7	同上	韓○臣	男	25	満	死	9.28	10.2	腺ペスト	入院死亡
8	同上	田○天○子	女	8	日	死	9.29	10.3	腺ペスト	同上
9	室町4丁目7寶昌ビル	福○鉄○	男	17	日	死	9.29	10.1	腺ペスト	同上
10	東三條通44田島方	井○和○	男	24	日	死	9.30	10.2	腺ペスト	同上
11	同上	松○正○	男	23	日	死	9.30	10.4	腺ペスト	同上
12	室町4丁目7寶昌ビル	高○眞○	女	3	日	死	9.30	10.20	腺ペスト	同上
13	室町四丁目5金城アパート	矢○正○	男	21	日	死	10.2	10.7	腺ペスト	同上
14	室町4丁目7大成館	徳○富○	女	12	日	死	10.2	10.4	腺ペスト	同上
15	東三條通44田島方	宋○山	男	56	満	死	10.5	10.10	肺ペスト	隔離中ニ発病
16	室町4丁目5金城アパート	後○愛○	女	17	日	治癒	10.5	10.22	腺ペスト?	入院治癒
17	同上	李○金	男	10	満	死	10.6	10.8	ペスト敗血症	隔離中ニ発病
18	露月町4丁目満○社宅	黄○氏	女	45	満	死	不明	10.11	ペスト敗血症	発生死亡
19	入船町2丁目雙盛泰	陳○玉	男	55	満	死	不明	10.11	腺ペスト	同上
20	室町4丁目5金城アパート	福○勉	男	27	日	死	10.9	10.11	腺ペスト	隔離中ニ発病
21	同上	甯○源	男	18	満	死	10.10	10.13	腺ペスト	同上
22	梅ヶ枝町3丁目23	蘇○田	男	37	満	死	不明	10.13	皮膚ペスト	発生死亡
23	室町4丁目7大成館	土○ヨ○	女	58	日	死	10.11	10.17	ペスト敗血症	隔離中ニ発病
24	露月町行路病者	王○東	男	36	満	治癒	10.12	11.2	眼ペスト?	入院治癒
25	日本橋通75國華ホテル	梶○春○	男	31	日	死	10.17	10.22	皮膚ペスト	入院死亡
26	日本橋通75廣本洋行	宋○林	男	40	満	死	10.22	10.22	腺ペスト	
27	日本橋通62の1	張○俊	男	46	満	死	11.8	11.12	ペスト敗血症	
28	梅ヶ枝町4丁目14	尹○模	男	19	満	死	11.13	11.15	腺ペスト	

(515-5)

猫病院ニ赴キ、棺内ニ納メラレテイタ忠子ノ屍体ヨリ検査材料（淋巴腺種）ヲ採リ、之ニ就テ鏡檢上ペスト菌ヲ檢出スルコトガ出来タノデ30日23.00時類似ペストト決定シ、防疫態勢ヲ一層強化シタ、即血犬猫病院付近ノ隔離ヲ更ニ嚴重ニナシ、尚市立千早病院ニ患者收容所ヲ開設シテ患者ヲ收容スル準備ヲナサシメルト共ニ濃厚ニ汚染サレテイルト考ヘラレル患者発生家族及患者ト交通ノアツタ人々ヲ健康隔離スル準備ヲナサシメ、取敢ズ犬猫病院ノ現在患者ヲ收容シ、尚其ノ付近居住家族ヲ健康隔離シタ、其ヲ終了シタノハ10月1日ノ午前2.00時頃デアツタ。

一方犬猫病院付近居住家族ニ就テペスト発生ノ有無ヲ調査シタトコロ寶昌ビル居住福田鉄男ハ9月29日ヨリ発病シ、夕刻軍医部小泉大尉ノ往診ヲ受ケ、自宅ニテ療養ニ努メテイルケレドモ症状極

メテ重篤ニシテ、ペストノ疑濃厚ナルコトヲ知り、尚本人の姉中野砂子ハ同室ニ居住シテイタノデアルガ9月25日発病シ、市保健所ニ入院9月28日死亡シ、其ノ病名ハ急性肝臓萎縮症トサレテイルケレドモ症状ヨリ考ヘテペストノ疑ノ濃厚デアルコトガ判ツタ、尚宝昌ビル居住藤田君香ハ9月25日発病シ、共和医院ノ医師ノ来診ヲ受ケ、9月27日ニハ長春医院小児科徳○医師ノ来診ヲ受ケタケレドモ病名不明ニシテ症状ガ重篤デアルタメニ9月30日満鉄医院ニ入院シテ療養ヲ受ケツツアルコトガ判リ、其ノ妹キヌ子ハ9月26日朝発病シ、同日有長春医院ニ到ツテ診察ヲ受ケタケレドモ確タル病名不明ニシテ悪性感冒デアロウトノ診断ノ下ニ治療ヲ受ケテイルウチニ9月30日自宅ニテ死亡シテイルコトガ判明シタ、斯様ナ調査ニヨツテペストノ病毒ガ犬猫病院付近一帯ニ相当濃厚ニ浸潤シテイル状況ガ明瞭ニナツタノデ、10月1日在京ノ満州国警務機関及衛生機関、軍関係、満鉄関係、満赤関係等相会シテ防疫会議ヲ開キ、防疫本部ヲ編成シ、田村副市長統監トナツテ防疫業務ノ全般ヲ統べ、市衛生処及市衛生試験所ガ主体トナツテ愈々本格的ニペスト防疫ガ開始サレタ。

而シテ10月1日ニハ上述ノ各般ノ状況ニ鑑ミテ所謂三角地域ノ交通遮断ヲ断行シ、同地域一帯ノ消毒及鼠族及昆虫ノ駆除ニ努メタ、併シナガラ当時既ニ病毒ハ三角地域ノ鼠族間ニ相当濃厚ニ浸潤シテイタ為（之ハ三角地域内ニテ捕獲セル鼠族ニ就テノ菌検索ノ結果カラ知ルコトガ出来タ）其ノ後モ尚10名内外ノ患者ノ続発ヲ認め、更ニ病毒ハ三角地域ヨリ周囲ニ波及シテ猛威ヲ逞クセントスル勢ヲ示シタケレドモ時機ニ適シタ軍官民協同ノ強力ナ防疫処置ニヨツテ流行ノ蔓延ヲ抑圧シ、11月13日ニ発生セルペスト患者ヲ最終トシテ52日間ニ亘リ28名ノ患者ノ発生ヲ以テ終息シタ。

発生シタペスト患者ヲ一覽表ニシテ示セバ第1表ノ如クデアリ、尚其ノ日々ノ発生数ヲ示セバ第1図ノ如クデアル、此等ニヨツテ患者ノ発生状況及流行状態ヲ概ネ知ルコトガ出来ル。(515-2-4)

第2章 流行ノ疫学的観察

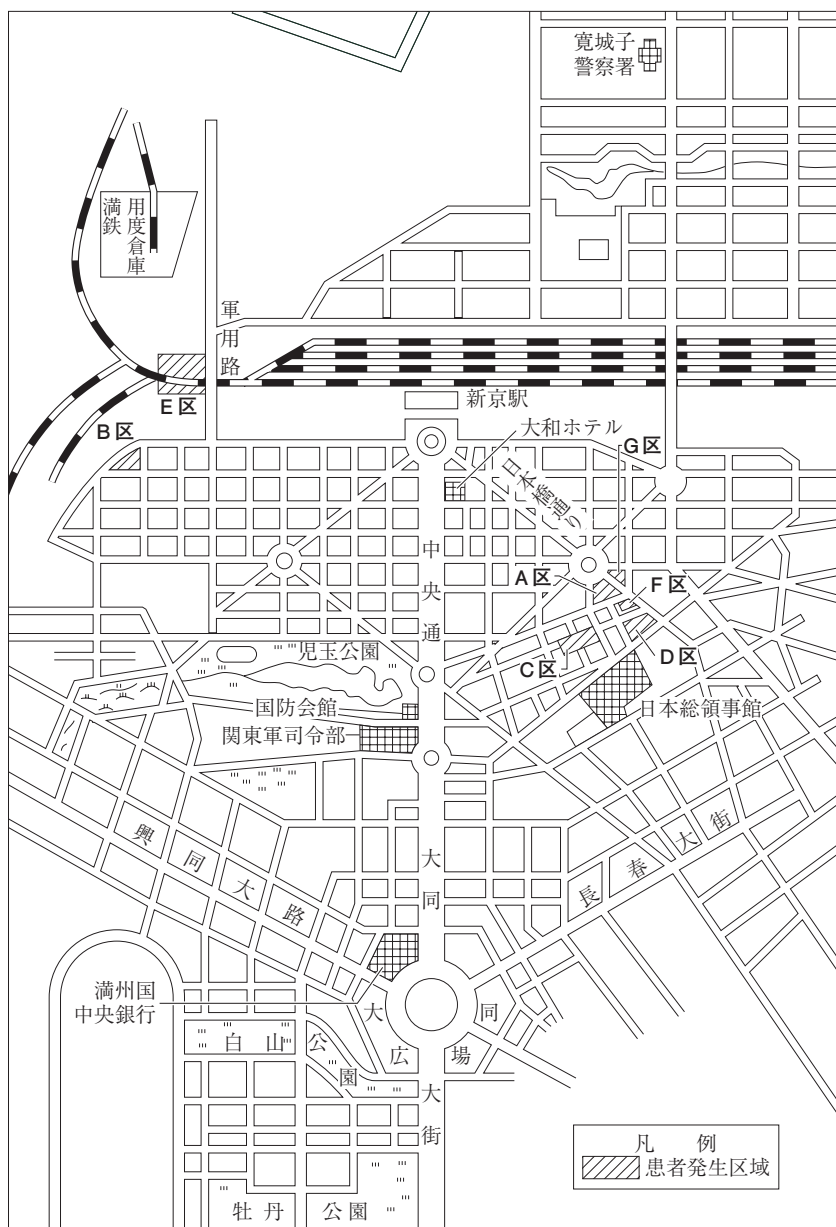
第1節 流行ノ季節的消長

……此ノペスト常在地域ニ於ケルペストノ流行状態ヨリ観察スル時ハ今次新京ノペストハ常在地域ヨリ何等かの因子ニヨツテ波及シテ来タモノデ此処ニ原発シタモノデハナイコトガ判ル、此ノ事ハ過去ニ於ケル新京ノペスト流行史ヲ見テモ自ラ明カデアル（之ニ就テハ後ニ述ベル）、而シテ常在地域ニ於ケルペスト流行ノ場合ト全ク同様ノ因子ニヨツテ11月寒氣ノ襲来ト共ニ終息シタモノデアルト考ヘラレル、尚患者ノ発生ガ比較的少数ニ終ツタコトハ軍官民協同ノ強力ナ防疫ノ効果ニ帰セラルベキモノト考ヘラレル。(515-6)

第2節 流行ノ環境衛生的観察

新京ヲ第2図ノ如ク地域別ニ区画シテペスト患者ノ発生状況ヲ地域別ニ観察スルに第4表ニ示ス如クニシテ三角地域ニ於テ最モ患者多発シ、次デ其ニ隣接スル四角地域及第I地域ニ患者発生シ、

第2図 新京地区ペスト患者発生図



(注) 第2図は不鮮明であるため、松村高夫・解学詩・江田憲治編著『戦争と疫病』本の友社、1997年、91頁より転載した。

尚第Ⅲ地域ヨリ2名ノ患者ノ発生シテイルノヲ認メル、第Ⅲ地域ヨリ発生シテイル2名ノ患者ノ内ノ1名王振東ハ果シテペスト患者デアルカ否カ疑ハシイモノデアリ、他ノ1名黄○氏ノ隣ハ田島犬猫病院傭人韓秀臣(9月28日発病10月2日死亡)ノ父韓学淳ノ家ニシテ韓秀臣ガ屢々生家ニ出入シタコトハ明カデアルカラ韓秀臣ガ病毒ヲ搬入シ(有菌蚤ヲ衣類ニ付着サセテ運搬スルコトガ考ヘラレル)、

第4表 地域別患者発生状況

地区／患者	発生数	発生率 (%)
三角地域	20	71.8
四角地域	3	10.7
第I地域	3	10.7
第II地域	0	0
第III地域	2	7.1
第IV地域	0	0
其ノ他	0	0

(515-9)

其ノ病毒ガ直接ニ有菌蚤ニヨツテ黄氏ニ運搬セラレ、或ハ其ガ鼠族間ニ侵入シ、次デ黄氏ノ発病ニ至ツタモノデハナカロウカト想像サレルノデアルカラ、ペストノ流行ハ先ヅ三角地域ニ発生シ、其ヨリ周囲ノ四角地域及第I地域ニ波及シ、又第III地域ニハ前述ノ如キ状殊ナ事情ニヨツテ伝播サレタモノデハナカロウカト考ヘラレル、此ノ事ハ各地域ニ於ケル日別ノ患者発生状況ヲ調査シタ第5表ノ成績ヲ見レバー層明カデアル、即チ本表ニ於テ見ル如ク三角地域ニ9月23日発生シタペストガ同地域ニテ多数患者ノ続発ヲ起シ、其ヨリ次第ニ四角地域ニ拡ガリ、更ニ第I地域ニ伝播シテ行ツタモノト推論スルコトガ出来ル。(515-8)

楮而腺ペスト流行ノ発生ハ其ノ地域ノペスト関係動物就中鼠族ノ種類及其ノ数量トペスト関係昆虫ノ種類及其ノ数量ニ密接ナ関係ヲ有シ、従ツテ其ノ地域ノ居住環境ニ間接ニ関係シテイルノデ、新京就中三角地域付近ニ於テ此等ノ事項ニ就テ調査シタ成績ヲ述ベテペスト流行トノ関係ヲ考察スレバ次ノ如クデアル。(515-10)

第1項 新京ニ於ケルペスト関係動物ノ種類及其ノ数量的観察(動物環境)(略)

第2項 新京ニ於ケルペスト関係昆虫ノ種類及其ノ数量的観察(昆虫環境)(略)

第3項 患者発生地域及患者発生家屋ノ環境衛生学的観察(居住環境)(吉村氏ノ調査ニヨル)

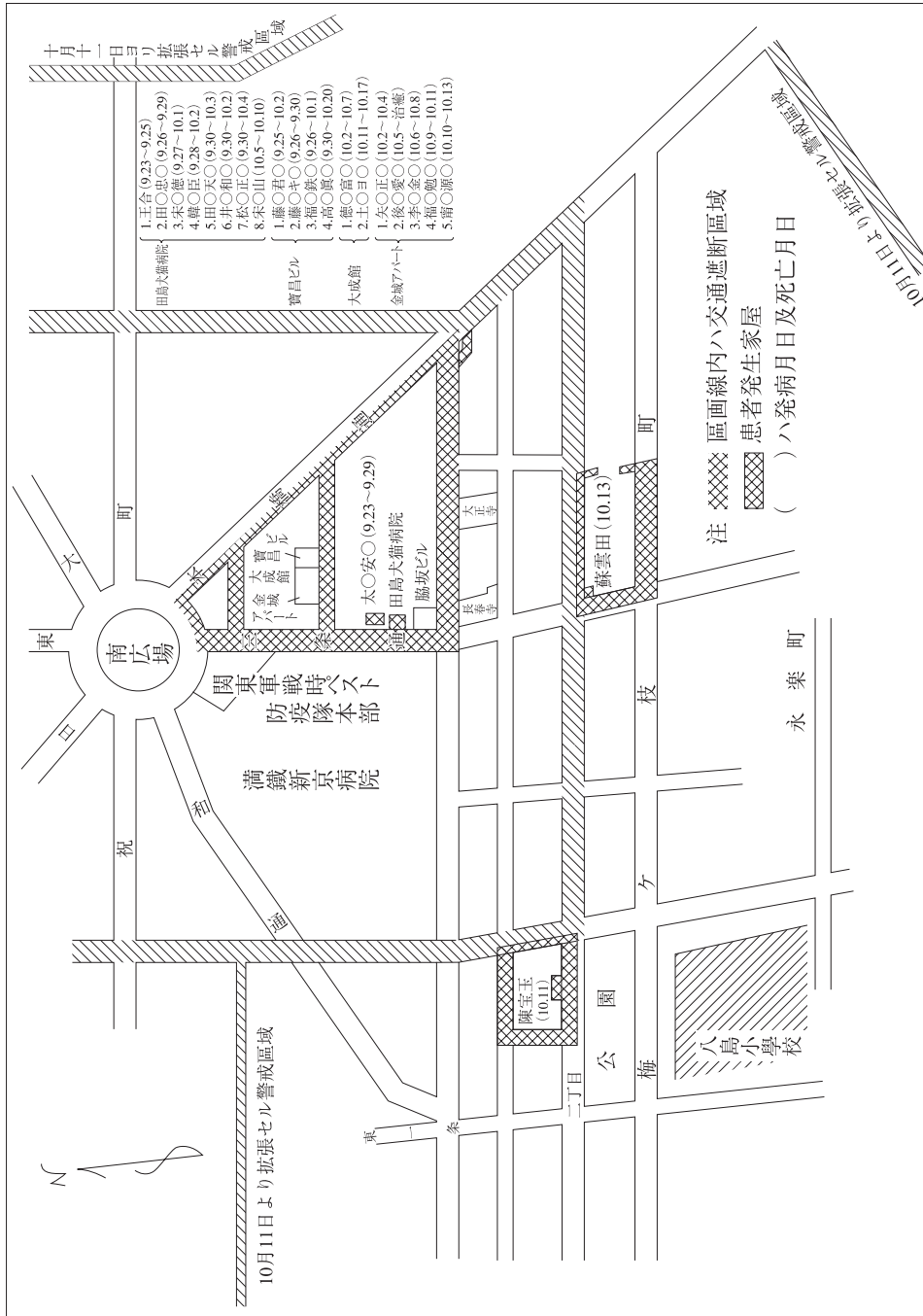
1. 患者発生地域ノ環境衛生学的観察

……尚三角地域ハ旧市街ニ含マレル地域ニシテ、環境衛生学的ニ観察シテ此ノ地域ニノミ特異ナ点ハ認メラレナカツタノデ此处ニ流行ガ発生シタノハ結局此ノ地域ニ直接病毒ガ輸入サレタ為ニシテ、此处ニ搬入サレタ病毒ハ其ノ伝播ニ有利ナ素因ヲ有スル此ノ地域ニ於テ流行ノ発生ヲ惹起スルに至ツタモノト考ヘラレル、而シテ三角地域ニ比較ノ限局シタノハ此ノ地域ガ広キ道路ニヨツテ隔離状態ニサレテイタ為ト考ヘラレル。(515-18)

2. ペスト患者ト一般住民ノ環境衛生ノ比較

前述セル如ク旧市街ハ経皮伝染病発生ニ対シテ良好ナル条件ヲ提供シテイルノデ其処ニ搬入サレ

第3図 ペスト患者発生要因



(515-20)

タペストノ病毒ガ其処ニ流行ヲ惹起スルニ至ツタコトハ想像ニ難クナイガ、以上ノ如クニシテ三角地域一帯ニ病毒ガ一樣ニ浸潤シタト思ハレルニ拘ラズ、第3図ニ示ス如ク或家屋ニ居住スル者ニ於テノミペスト患者ノ發生シタノハ何故デアロウカ、其ニ就テハ偶發的事項ヲ見逃スコトハ出来ナイケレドモ患家ト一般民家との間ニ環境衛生的差異ガアルカ否カヲ検査スルコトヲ極メテ意義深キコトデアルト考ヘラレタノデ、其ニ就テ検査シタ成績ヲ述ベレバ次ノ如クデアル。

先ヅ患者ノ初發シタト考ヘラレル犬猫病院ハ不潔ナ動物小屋ヲ有シ且犬、猫、牛、馬等ノ出入多ク、鼠族及昆虫ニ対シテ良好ナ温床ヲ提供シテイタコトハ想像ニ難クナイ、又同一家屋内ニ非衛生的ナ滿人ノ雜居シテイタコトモ流行ノ發生ニ対シテ良好ナ条件ヲ提供シテイタモノト考ヘラレル。

尚三角地域内ノ他ノ患者發生家屋ハ総テアパートニシテ多数ノ家族ガ集團的生活ヲ営ミ、且人口密度モ極メテ高ク、從ツテ人ノ出入交通頻繁ニシテ一般ニ不潔ニナリ易ク、又畳敷ニテ布団ヲ用ヒル生活ノ為塵埃多クシテ昆虫發生ノ温床ヲ提供シ、一方世帯数多キ為ニ食物残渣等多ク且汚物処理ノ不良ナタメニ鼠族ニ格好ナル棲息所ヲ提供シ、尚家屋ノ構造上室内ノ照度低ク、紫外線強度低ク且換氣不良ノタメニ湿度高キ等ノ不良ナ環境ト相待ツテ、斯クノ如キ家屋ニ患者ガ多發シタモノデアロウト考ヘラレル。(515-19~20)

第3節 流行ノ統計的觀察

今次ノ流行ハ三角地域ヲ中心トシテ9月23日ニ突發的ニ發生シ、其ノ地域ニハ患者ノ多發ヲ見タケレドモ適切ナ防疫処置ト季節ノ影響ニヨリ周囲ニ蔓延スルコトナク、比較的速カニ終息ノ經過ヲ辿ツタモノニシテ患者發生ノ狀況ハ第1図ニ示ス如クデアル、流行期間ハ9月23日ヨリ11月13日ニ至ル52日間ニシテ其ノ間ニ發出セル患者ハ總数28人デアル。

人種別、性別、年齢別罹患狀況、三角地域内ニ發生セルペスト患者ヲ人種的ニ觀察スレバ第23表ノ如キ成績ニシテ滿人ハ日本人ニ比シテ稍々罹患率高キモ之ハペスト菌ニ対スル抵抗性ノ人種ニヨル差異ニ因ルモノデハナクテ滿人ノ居住環境ガ不良デアル為ニ感染機会ニ遭遇スル頻度ガ高いノニ因ルモノト考ヘラレル、……(515-20~21)

……今次ノ流行ハ農安ノペスト流行ヨリ波及シテ来タモノト考ヘラレルノデ侵入シテ来タ病毒ガ数代ニ亘リ人体ヲ通過シ、毒力ヲ増強セラレテイタコトハ想像ニ難クナイ、其ハ新京ノ流行時ニ分

第23表 人種別患者發生数

人種	総員(人)	患者数(人)	罹患率(%)
日本人	536	13	2.42
朝鮮人	81	0	0
滿人	128	6	4.69
外人	10	0	0

(515-21)

離シタ人由来株，鼠由来株，蚤由来株等ガ総テ強キ毒カヲ保有シテイタコトヨリモ推論出来ル，一方新京ノ大衆ガペストニ対スル免疫ヲ保有シテナカツタコトハ其マデニペスト・ワクチンノ接種ヲ受ケテナカツタコト及過去ニ於テ相当長イ期間新京ニ於テハペストノ流行ガナカツタコトヨリ推論スルコトガ出来ル。…… (515-23)

第3章 感染経路ニ関スル考察

第1節 病毒搬入経路ニ関スル考察

今次ノ流行ニ於テ病毒ガ如何ニシテ搬入セラレタルカニ就テ種々ノ点ニ就テ調査シタケレドモ遂ニ其ヲ明カニスルコトガ出来ナカツタノハ残念デアツタ。

今茲ニ病毒搬入ノ経路ニ関シテ考へ得ベキ場合ヲ考察シテ述べレバ次ノ如クデアル。

I. 伝染源ニ関スル考察

今次ノ人ペストノ流行デ鼠ペストノ流行ヲ先駆トシテイルモノデアルカ否カニ就テハ次ノ諸点ヨリ鼠ペストガ先行シ，其ニ引続いて人ペストガ発生シタモノデアルト推論スルコトガ出来ル。

- 1) 患者発病前10日間ノ行動ヲ調査シ，特ニ初発患者ト目セララル王合及太田○次ニ就テ発病前ノ行動（自身病毒ヲ取扱ヒタルコトノ有無，ペスト流行地域ヘ出入ノ有無，病毒ニ接近セル人（ペスト流行地域ト交通ノアル人，ペスト菌ヲ取扱フ研究機関ニ関係ヲ有スル人）トノ交通ノ有無）ヲ詳細ニ調査シ，同時ニ患者ノ家族及患者ト密接ナ関係ヲ有スル者ニ就テ同様ノ調査ヲシタケレドモ何等罹患ヲ肯定シ得ル様ナ関係ヲ見出スコトハ出来ナカツタ，即チ患者ハ孰レモ各家庭ニ於テ感染機会ヲ意識スルコトナク罹患発病シタモノデアツテ病毒ヲ直接患者ヨリ受ケタモノデモナク，或ハ不良分子ニヨツテ直接謀略的行為ヲ受ケタモノデモナカツタ，斯クノ如ク不知不識ノ間ニ家族ニ於テ罹患シ，腺ペストヲ発症シ，而モ其ノ屍体ニ就テ多数ノ蚤ノ刺螫跡ヲ認メタコトハ蚤ニヨツテ病毒ヲ受ケタモノデアルコトヲ示スモノニシテ，尚各患者ノ発生状況ヲ見ルニ相互ニハ交通関係ナクシテ而モ発病月日ヲ同ジクシテイルコトハ鼠ペストノ流行ガ先行シテイテ，其ヨリ蚤ヲ介シテ人ペストノ流行ガ発生シタコトヲ暗示スルモノト云フコトガ出来ル。
- 2) 患者発生前ニ於ケル患者発生地域（三角地域）及其ノ付近ノ斃鼠ノ状況ヲ調査セルニ第30表ノ如キ成績ニシテ三角地域ニ於テハ斃鼠ノ多カツタコトハ確實デアルカラ此ノ事ヨリモ人ペストノ流行ニ先行シテ鼠ペストノ流行ガアツタコトヲ想像スルコトガ出来ル。
- 3) 流行発生後患者発生地域ニテ捕獲セル鼠ニ就テ菌検索ヲ行ツタ結果多数ノ有菌鼠ヲ検出シ，又其ニ附着シテイタ蚤（*X. cheopis* 及 *C. anisus*）ヨリ菌ヲ検出シタコト及其ノ検出率が概ネ患者ノ発生率ニ併行セル関係ニアツタコトハ人ペストガ鼠ペストニ由来スルコトヲ物語ル有カナ事實デアル。

- 4) 今次ノ流行ガ腺ペストノ流行デアツタコトモ鼠ペストニ由来セル人ペストノ流行デアルコトヲ示スモノデアアル。(515-23~24)

II. 流行発生地域ニ関スル考察

ペストノ病毒ガ一番最初ニ何処ニ搬入サレタモノデアアルカニ就テハ次ノ諸点ヨリ所謂三角地域ニ最初ニ搬入サレタモノデアアルト推論スルコトガ出来ル。

- 1) 流行発生前ニ三角地域ニ斃鼠ガ非常ニ多ク発見サレタコト(第30表(略)参照)。
- 2) 患者ノ発生状況ヲ見ルニ三角地域ニ初発シ、而モ同地域ニ相当多発セル後ニ周囲ノ地域ニ若干ノ患者ノ発生ヲ認メルに至ツタコト。
- 3) 流行発生後三角地域ヲ中心トシテ付近一帶ヨリ捕獲スル鼠ニ就テ菌検索ヲ行ヘルニ最初ハ三角地域ノ鼠ニ菌ノ検出率高ク次第ニ其ノ周囲ノ地域ヨリ捕獲セル鼠ニモ菌ヲ検出スルに至ツタコト。

又鼠体ニ付着シテイル蚤ノ数量的観察及菌検索ノ成績ヨリモ先ヅ三角地域ニ鼠ペストノ流行発生シ、次テ其ガ周囲ノ地域ニ伝播シタコトヲ推論シ得タコト。

- 4) 環境衛生的ニ観察スル時ハ新市街ト旧市街トノ間ニハ比較的著明ナ差異ガ認めラレ、旧市街ハ経皮伝染病ニ対シ流行発生ノ素因ヲ有スルコトヲ認め得タケレドモ三角地域ガ特ニ其ノ発生素因ヲ多ク有スルモノトハ考ヘラレナカツタ、従ツテ三角地域ニ流行ノ発生シタノハ病毒ガ先ヅ第一ニ此ノ地域ニ搬入サレタ為デアアルトスルノガ妥当デアアルト考ヘラレタコト。

上述セル処ヨリ病毒ハ最初三角地域ニ搬入サレタモノデアアルト考ヘルノガ妥当デアアルケレドモ三角地域内ノ何処ニ搬入サレタモノデアロウカ、此ノ事ニ関シテハ次ノ点ヨリ考察シテ田島犬猫病院ニ先ヅ最初ニ搬入サレタモノデアロウト推論スルコトガ出来ル。

- 1) 田島犬猫病院ニ於テ初発患者ノ発生シタコト及同家族ヨリ多数ノ患者ガ続々ト発生シ同家屋ガ病毒ニヨツテ極メテ濃厚ニ汚染サレテイタコトガ想像シ得ラレルコト。
- 2) 同家ヨリ捕獲セル鼠及付着昆虫ノ菌検出率が高カツタコト。
- 3) 同家ハ人ノ出入多ク、又家畜ノ出入ノ多カツタコト、特ニ農安方面ヨリ診療ノ為ニ牛馬ノ出入スルモノノアツタコト。

以上ノ点ヨリ田島犬猫病院ニ先ヅ病毒ガ搬入サレタモノト考ヘラレルケレドモ、之ハ推論デアツテ、或ハ三角地域ノ他ノ部分ニ搬入サレタ病毒ガ鼠ペストノ発生ニ好適ナ素因ヲモツテイル犬猫病院ニ於テ鼠ペストノ流行ヲ発生シタモノデアアルカモ知レナイ。

孰レニセヨペストノ病毒ガ先ヅ三角地域ニ搬入サレタコトハ確實デ、其ノ内デモ種々ノ点カラ考ヘテ田島犬猫病院ニ先ヅ病毒ガ搬入サレタモノデハナカロウカト考ヘラレル。(515-24~25)

Ⅲ. 病毒搬入時期ニ関スル考察

三角地域ニ鼠ペストノ流行ヲ惹起シタ病毒ノ搬入セラレタ時期ニ関シテハ全く不明デアルト云フヨリ他ハナイガ次ニ述ベルコトヨリ考察スレバ8月下旬デアロウト推論スルコトガ出来ル。

文脈ニヨルト鼠ペストノ流行ハ人ペストノ流行ニ先行スルコト約2週間前後デアルト云ハレテイ、從ツテ三角地域ニ於テハ9月10日前後ニ鼠ペストノ流行ガ發生シタモノト考ヘラレル、又人ペストノ流行ノ發生前ニ於ケル斃鼠ノ発見状況カラ考ヘテモ9月10日前後ニ鼠族間ニペストノ流行ガ發生シタモノト考ヘラレル。

然ラバ其ノ鼠ペストノ流行ヲ惹起シタ病毒ハ何時頃ニ三角地域ノ鼠族間ニ輸入サレタモノデアロウカ、此ノ事ニ関シテハ病毒ガ有菌蚤ニヨツテ運バレタカ或ハ有菌鼠ニヨツテ運バレタカニヨツテ若干ノ差異ガ生ズルノデアル、又其ノ有菌蚤或ハ有菌鼠ノ数ニヨツテ左右サレルノデアツテ一時ニ多数ノ有菌鼠或ハ有菌蚤ガ搬入サレレバ速カニ流行ヲ發生シ得ルケレドモ極メテ少数ノ有菌蚤或ハ有菌鼠ニヨル時ハ鼠族間ニペストノ流行ヲ發生スル迄ニハ相当ノ期間ヲ要スルコトハ想像ニ難クナイ。

若シ1匹ノ有菌蚤ニヨツテ病毒ガ運搬サレ、其ガ三角地域内ノ一頭ノ鼠ニ付着シタトスレバ其ノ鼠ガ発症シテ敗血症ヲ起シテ斃死スル迄ニハ少クトモ37日ヲ必要トスル、其ノ鼠体ニ付着シテイタ蚤ノ数ガ3デアルトスレバ(之ハ新京ニ於ケル蚤指数ノ調査成績ヨリ知ルコトガ出来ル)、其ガ有菌蚤トナツテ次ノ3頭ニ付着スルコトニナル、蚤ハ鼠ガ斃死シナケレバ他ノ鼠体ニ移ラナイ、又ペスト菌ヲ吸取シタ蚤ガ感染能力ヲ有スル為ニハ胃内ニ吸ハレタペスト菌ガ其処デ増殖スルコトガ必要デアルカラ少クトモ23日ヲ必要トスル、從ツテ其ノ地域ノ鼠ノ蚤指数ヲ3トスレバ1匹ノ有菌蚤ガ其ノ地域ニ搬入サレテ直チニ1頭ノ鼠ニ付着スル時ハ約1週間後ニ3匹ノ有菌蚤ガ出来ル、其ガ各々1頭宛ノ鼠ニ付着シテ其ヲ発症サセルトスレバ始メカラ約2週間後ニハ $3^2=9$ 匹ノ有菌蚤ガ出来ル、從ツテ次ニハ9頭ノ有菌鼠ヲ發生セシメ得ルコトニナル、斯クテ有菌鼠ハ等比級数的ニ増加シテ鼠族間ニペストノ流行ガ發生スルモノト考ヘラレル。……(515-23-26)

今次ノ流行ニ於テモ病毒搬入ノ時期ガ何時頃デアツタカハ全く不明デアルト云ハザルヲ得ナイガ以上述べタ所ヨリ推論スレバ鼠族間ノペストノ流行ガ相当強クナリ、其ガ人ペストノ流行ヲ起スニ足ル迄ニナツタノハ人ペストノ發生状態ヨリ考ヘルト9月中旬頃ト思ハレルノデ、若シペスト病毒ガ僅数ノ有菌蚤或ハ有菌鼠ニヨツテ此ノ地域ニ搬入サレタモノトスレバ其ヨリモ2週間—3週間前ト考ヘラレルノデ其ノ時期ハ8月下旬デアロウト推論シ得ラレルノデアル、併シナガラ之ハ大シテ深い根拠ノアル推論デナイコトハ前述セルトコロヨリ明カデアル。(515-25~26)

Ⅳ. 病毒搬入経路ニ関スル考察

病毒ガ如何ニシテ三角地域ニ搬入セラレタモノデアルカニ就テハ謀略ノ目的ニテ人工的ニ搬入サレタ場合ト自然的ニ何等故ヲ為ナク搬入サレタ場合トヲ考ヘルコトガ出来ル。

謀略ニ依ル搬入ニ関スル考察

時局柄謀略の行為ヲ否定スルコトハ出来ナイノデ次ギニ諸点ニ就テ調査シ、以テ謀略ヲ肯定シ得ル資料ヲ獲得セント努メタケレドモ、其ヲ肯定シ得ル成績ハ得ラレナカツタ。

- 1) 流行発生ノ直前ニ於ケル新京来住ノ外人ニ関スル調査ヲシタケレドモ特別ニ疑ハシイ点ハ認めラレナカツタ。
- 2) 新京以内ニ居住スル要注意者ノ動向ヲ調査シタケレドモ特別ニ疑ノ存スル点ハナカツタ。
- 3) 容疑者ヲ検問シタケレドモ疑問ノ点ハナカツタ。
- 4) 容疑物件ノ蒐集ニ努メタケレドモ特別ナモノハ得ラレナカツタ。
- 5) 新京市内ノペスト菌ヲ取扱ツテイル研究機関関係者ノ状況ヲ調査シタケレドモ疑ハシイ点ハ認めラレナカツタ。
- 6) 新京市内ノ細菌用具ノ販売者ニ就テ其ノ販売状況ヲ調査シタケレドモ購買者ノ状況ニハ疑ハシイ点ハ認めラレナカツタ。
- 7) 田島犬猫病院ト外人トノ関係ヲ調査セルニ詳細ハ不明デアルケレドモ、独逸及伊太利公使館員ニテ犬ノ診断ヲ受ケタモノノアル他ニハ出入者ナク、謀略の行為ヲ肯定シ得ル資料ハ得ラレナカツタ。
- 8) 田島犬猫病院ニ於ケル受診家畜ノ状況ヲ調査シタ結果此ノ受診家畜ヲ介シテ謀略ヲ行ツタノデハナイカト思ハレル点ハ見当ラナカツタ。

上述セル如ク謀略の行為ハ否定スルコトガ出来タノデ次ニ自然発生トシテ其ノ病毒搬入ノ経路ニ就テ考察スル必要ガアル、而シテ自然発生トスレバ其ノ病毒ハ次ノ諸点ヨリ考察シテ、ペスト常在地域特ニ農安ヨリ搬入サレタモノデアルト推論スルコトガ出来ル。

- 1) 昭和15年ノペスト常在地域ニ於ケル流行ノ発生状態ヲ見ルニ第3表ニ示ス如クニシテ6月中旬農安縣城内ニ初発シタ流行ハ次第ニ疫勢ヲ高メ、農安縣城内ニ猛烈ナ流行ヲ起シタバカリデナク遂ニハ周囲ノ部落ニ伝播シテ流行ハ終息ノ傾向ナキ状態デアツタ、而シテ新京ト農安ハ僅カニ62kmヲ隔テルノミデアツテ其ノ間ハ一望ノ田野ニシテ其ノ間ニ農村小部落ガ介在シテイル状況デアルカラ此ノ地理的状況カラ考ヘテモ病毒ガ新京ニ侵入シ得ルコトガ考ヘラレタ。
- 2) 農安縣城内ニ発生セルペスト流行ノ新京ヘノ侵入ヲ防御スルタメニ両者ノ間ニ介在スル長春縣ヲ障壁トスル如ク防疫態勢ハ整ヘラレテイタケレドモ其ノ状況ヲ見ルニ7月15日ヨリ新京一農安間ノ重要道路ニハペスト防疫監視哨ヲ設ケテ人ノ交通ヲ監視スルト共ニ予防接種ヲ行ツテイタケレドモ、其ノ業務ハ僅カニ検診及予防接種ヲ実施スルニ過ギナクテ交通ヲ禁止シタノデハナカツタノデペスト病毒ノ侵入スル機会ハアツタモノト思ハレル、殊ニ夜暗ヲ利用シ、或ハ他ノ道路ヨリ新京以内ニ潜入スルモノガ多く、是等ヲ防止スルコトハ困難デアツタ、其処デ9月7日以後ハ之ヲ撤退シタ為ニ其ノ後ニハ殆ド自由ニ交通ガ行ハレテイタ、從ツテ其ノ間ニ病毒侵入ノ機会ノ極メテ多カツタコトハ想像ニ難クナイトコロデアル。

- 3) 新京ト農安ノ人的及物的ノ交通ノ状況, 上述セル如ク新京ト農安トノ間ニハ人ノ交通ハ自由ニ行ハレテイタ, 殊ニ農安ハ新京ト經濟的ニ頗ル緊密ナ關係ニアルノデ其ノ間ニハ人的及物的ノ来往ガ頻繁デアルバカリデナク農安ノ重要商店ハ殆ト新京大商店ノ支店デアル為ニ今次流行ノ發生ニ際シペスト患者ヲ出シタ農安ノ支店ヨリ使用人ガ逃亡シテ来京シテ来タコトハ確實デアル, 又農安ト新京トハ鉄道ニヨツテモ自由ニ人的及物的ノ交通ガ行ハレテイタ, 殊ニ自動車, 牛車, 馬車或ハ馬ニヨツテ荷物ガ農安ヨリ新京ニ運搬サレテイタコトハ確實デアル, 從ツテ是等ノ手段ニヨツテ病毒ノ搬入ガ行ハレタコトハ容易ニ考ヘ得ラレルトコロデアル。
- 4) 新京ニ於ケル過去ノペスト流行ノ状況, 新京ニ於テハ明治44年北滿ヲ席卷セル肺ペストノ流行時ニ滿鉄付属地ニ105人ノ肺ペストノ發生ガ記録サレテイル, 其ノ後康德元年10月ニ農安方面ヨリ来京シタトラックノ運転手(日本人)ガ滿鉄新京医院ニ入院死亡シテ腺ペストト決定サレタ, 康德6年2月ニハ市内ノ某研究所ニテ實驗室感染ニヨル肺ペスト患者發生シ, 其ノ患者ヨリ自宅感染ニヨツテ1名ノ肺ペスト患者ヲ出シタコトガ記録サレテイル, 併シナガラ是等ノ患者ノ感染経路ハ明瞭ニシテ新京ニ病毒ガ固定シテイテ, 其カラ發生シタモノデナイコトハ確實デアル, 此ノ成績ヨリ考ヘテモ今次流行ノ病毒ガ他ヨリ搬入サレタモノデアルコトハ明カデアル。
- 5) ペスト菌ヲ取扱フ研究調査機関關係者ノ状況, 新京市内ニテペスト菌ヲ取扱ヒ且其ヲ保有シテイイルノハ衛生技術廠及市衛生試験所ノ2ヶ所ニシテ, 同所ヨリ試験動物ノ逃亡或ハ従業員ニヨツテ有菌蚤ノ搬出サレルコトガ考ヘラレルノデ施設及従業員ノ勤務状況ヲ調査シ, 尚家族ノ衛生状態ヲ調査シタケレドモ特記スベキ事ナク, 又此等従業員ニシテ田島犬猫病院付近ニ居住シテイイルモノモナク, 或ハ同医院關係者ト密接ナ交通ノアルモノモナカツタ。

以上ノ諸点ヨリ考察スレバ今次流行ノ病毒ハ農安流行地ヨリ搬入サレタモノデアルトスルノガ妥当デアルト考ヘラレル。(515-26-28)

Ⅴ. 農安流行地ヨリ三角地域ヘノ病毒搬入経路ニ関スル考察

病毒ノ搬入経路ニ就テハ患者ニヨル場合ト有菌鼠ニヨル場合ト有菌蚤ニヨル場合トガ考ヘラレルノデ是等ノ事項ニ就テ々々考察スレバ次ノ如クデアル。

1) 患者ニヨル病毒ノ搬入

滿州ニ於イテハ病毒ガ患者ニヨツテ搬入サレルコトガ屢々アルノデ此ノ点ヲ考慮シテ三角地域ヲ中心トシテ其ノ周囲ノ地域ニ於ケル8月1日以降9月中旬ニ至ル間ノ死亡者及行路病死者ノ死亡原因ヲ調査セルモ疑ハシイモノハ見当ラナカツタ, 從ツテ患者ニヨル病毒ノ搬入ハ否定スルコトガ出来ル。

2) 有菌鼠ニヨル病毒ノ搬入

有菌鼠ガ自發的ニ移動シテ農安ヨリ三角地域ヘ病毒ヲ搬入シタトイフコトモ考ヘラレルケレドモ,

斯様ナ大距離ノ移動ハ殆ド起リ得ナイモノト考ヘラレル、從ツテ有菌鼠ニ依ツテ病毒ガ搬入サレタトスレバ其ガ貨物ト共ニ搬入サレタ場合ガ考ヘラレル、此ノ事ハ農安ト新京トノ間ニハ鉄道ニヨルバカリデナク自動車、馬車、牛車等ニヨル荷物ノ運搬ガ頻繁ニ行ハレテイタノデ此ノ荷物ニ紛レ込メダ有菌鼠ガ三角地域ニ搬入サレルト云フコトガ考ヘラレルケレドモ農安ヨリ輸送サレタ荷物ガ特ニ多ク三角地域ニ搬入サレタト云フコトハナク、從ツテ若シ斯様ナ手段ニテ病毒ガ搬入サレタモノトスレバ他ノ地域ニ於イテモ同様ニ流行ガ發生シ得ル理デアルケレドモ特ニ三角地域ニ流行ガ發生シタノハ他ノ原因ニヨルモノデアルコトヲ示スモノト考ヘラレル、併シナガラ三角地域ニ運搬サレタ荷物ニ偶々有菌鼠ガ紛レ込メデイテ、其ガ其処ニ流行ヲ起シタト云フ偶発的ナコトガアツカカ否カハ否定スルコトハ出来ナイ。

3) 有菌蚤ニヨル病毒ノ搬入

先ヅ第一ニ有菌蚤ガ人(患者及健康者)ノ衣類ニ附着シテ運搬サレルコトガ考ヘラレル、此ノ事ニ関シテハ三角地域ノ住民ガ農安ノ流行地ニ行キ有菌蚤ヲ附着シテ歸ツタコトガアルカ否カ、又農安方面ヨリ其ノ衣服ニ有菌蚤ヲ附着シテ三角地域ニ來タ人ガアルカ否カ、或ハ三角地域ノ人ガ農安方面ト交通アル人ト接触シテ其ノ人ニ附着シテキタ有菌蚤ヲ自分ニ附着サセルヤウナ機会ガアツカカ否カ、其ノ他種々ノ場合ヲ考察シテ調査シナケレバナラナイノデアルガ實際問題トシテ其ハ殆ド不可能ニ近イコトガアル、併シナガラ若シ斯様ナ手段ニヨツテ有菌蚤ガ運搬サレ、其ガペストノ流行ヲ惹起シタモノトスレバ三角地域以外ニ於テモ流行ガ起リ得タ筈デアル、然ルニ三角地域ニ限局シテ發生シタノハ他ノ原因ニヨルモノデアルト考ヘルノガ妥当デアロウ、併シナガラ一方ニハ以上述ベタ様ナ手段ニヨツテ偶発的ニ三角地域ニ流行ガ發生シタコトモ考ヘラレナイコトハナイ。

次ニ有菌蚤ガ鼠体ニ附着シテ搬入サレルコトガ考ヘラレル、此ノ事ニ就テハ有菌鼠ニヨル搬入ノ場合ト同様ニ考ヘラレル。

次ニ有菌蚤ガ荷物ニ附着シテ搬入サレルコトガ考ヘラレル、之ハ衣類、家具等ノ運搬サレル時ニハ屢々起リ得ルコトト考ヘラレル、而モ農安ト新京トノ間ニハ前述ノ如ク荷物ノ交通ハ常ニ行ハレテイタノダカラ最モ起リ得ル経路デアルト思ハレルケレドモ此ノ手段ニヨツテ特ニ三角地域ニ流行ノ發生スル根拠ハ認メラレナイ、從ツテ若シ此ノ手段ニヨツテ三角地域ニノミ流行ガ發生シタモノトスレバ其ハ全ク偶発的ノコトニ因ツタモノデアルト云フヨリ他ハナイ。

次ニ考ヘラレルコトハ有菌蚤ガ田島犬猫病院ニ受診ニ來タ家畜ニヨツテ搬入サレタカ否カノ問題デアル、此ノ事ニ関シテハ8月1日以降同病院ニ受診ニ來タ犬、猫、牛馬等ノ飼育地ヲ調査シタケレドモ資料ガ散逸シテイタ為ニ明カニスルコトガ出来ナカツタ、聞ク所ニヨルト犬、猫ハ主トシテ新江市外ノモノニシテ遠クペスト常在地区ヨリ受診ニ來タモノハナイ様デアル、又農安方面ニ狩獵ニ出タ犬ガ受診ニ來タカ否カを檢査セルニ斯カル例ハ2件アツタケレドモ流行地ニ侵入セル形跡ナク且其ノ時期モ病毒搬入時期ニ一致シテ居ナイノデ疑フ置クコトハ出来ナカツタ、尚牛、馬等ハ現金払ニテ受診ニ來テ居タ為ニ受診簿ノ如キモノナク、該畜獸ノ所有者ハ明確デナイケレドモ聞ク所

ニヨルト農安方面ヨリモ相当ニ来テイタコトハ確實デアル、牛、馬等ガ蚤ヲ自体ニ付着シテ運搬スルコトハ少ナイケレドモ是等ノ牛馬ニ乗セラレテ来タ荷物或ハ其ノ装具等ニ蚤ガ付着シテ運搬サレルコトハ屢々アルコトト考ヘラレル、從ツテ農安方面ヨリ受診ニ来タ牛、馬ノ荷物ニ付着シテ来タ有菌蚤ガ犬猫病院ニテ診療ヲ受ケテイル間ニ其処ニ落チテ其ガ犬猫病院ノ鼠ノ間ニ侵入シ、鼠族及昆虫ノ温床タル此処ニ先ヅ鼠ペストノ流行ヲ惹起シ、次デ人ペストノ發生ガ起シタモノト考ヘルコトガ出来ル、患者ノ發生狀況カラ考ヘテモ此ノ方法ガ起リ得ル公算ノ最モ大デアツタモノト思ハレル。

以上述ベタ如ク病毒ガ三角地域ニ搬入サレタ経路ニ関シテハ積極的ニ之ヲ証明スルコトハ出来ナカツタケレドモ上述ノ如クイロイロノ点ヨリ考察シテミルト田島犬猫病院ニ農安ヨリ受診ニ来タ牛或ハ馬ノ荷物ニ有菌蚤ガ付着シテ来テ其ガ犬猫病院ニ落チテ其処ニ鼠ペストノ流行ヲ惹起シ、次デ人ペストノ流行ヲ惹起シタモノデアルト考ヘルノガ最モ妥当デアルト思ハレル。

4) 小括

農安流行地ヨリ三角地域ヘノ病毒搬入経路ニ関シテハ農安ト交通ノアツタ人ノ衣類ニ付着シテイタ有菌蚤ガ偶然ニ三角地域ニ搬入サレタ場合モ考ヘラレ、又荷物ニ付着シテイタ有菌蚤ガ偶然ニ三角地域ニ搬入サレタ場合モ考ヘラレルケレドモ、上述セルトコロヨリ考察スレバペストノ病毒ガ農安ノ流行地ヨリ先ヅ三角地域ノ鼠族間ニ運搬サレ、其処ニ鼠ペストノ流行ヲ惹起シ、次デ人ペストノ流行ヲ惹起シタモノデアルコトハ確實ニシテ、而モ其ノ病毒ハ有菌蚤ニヨツテ運搬サレタモノト考ヘラレル、而シテ其ノ方法ハ田島犬猫病院ニ農安方面ヨリ受診ニ来タ牛、馬等ノ荷物ニ付着シテ運搬サレタモノデアロウト思ヘルノガ最モ妥当デアロウ。(515-28~30)

第2節 病毒伝播経路ニ関スル考察

第1節ニ於テ述ベタコトヨリ今次流行ニ於テハペストノ病毒ガ先ヅ鼠ペストノ流行ヲ起シ、次デ人ペストノ流行ヲ起シタモノト考ヘルコトガ出来ル、從ツテ患者ノ發生狀況ヲ觀テモ患者相互ノ間には交通關係ナク全ク、無關係ニ發生シ、人ヨリ人ヘノ伝染ハ特殊ノ例ヲ除イタ他ニハ考ヘラレナイ。

而シテ人ペストノ直接ノ伝染源ハ有菌ノドブネズミデアルコトハ明カデアリ、之ヲ人ニ伝播シタモノハ *X.cheopis* 及 *C.anisus* デアルコトハ菌検索ノ成績(第17表)及流行地域ノ塵埃ノ中ニ *X.cheopis* ヲ見出シタコト第32表及吸着試験ニヨツテ居室ニ是等ノ蚤ノ遊離シテイルコトヲ証明シタコト第31表及人ニ *X.cheopis* 付着シテイルコトヲ見出シタコト(第21表)等ヨリ推論シ得ラレル、即チ是等ノ成績ヨリ考察スレバ *X.cheopis* ガ有菌鼠体ニ付着シテ吸血シタ後其ノ鼠ガ斃死スルト蚤ガ鼠体ヨリ遊離シテ、機会ガアルト人ヲ刺螫シ、其ニヨツテ人ニペストヲ発症セシメルモノデアルト考ヘラレル、尚患者ノ發生シタ家屋ヲ環境衛生的ニ觀察スル成績ヨリ其ノ家屋ガ鼠族ノ出入容易ニシテ且蚤ノ繁殖ニ好適ナ条件ヲ備ヘテイルコトヲ認メタノデ此ノ事ヨリモ鼠族ガ伝染源デアツ

テ其ヲ伝播シタモノハ蚤デアツタコトヲ想像スルコトガ出来タ。(515-30-31)

総 括

昭和15年9月下旬新京ニ発生セルペストノ流行ニ就テ先ヅ患者ノ発生状況及流行状態ヲ述べ、次ニ其ニ就テ疫学的観察ヲ試ミタ。

今次流行ハ其ノ病毒ガペスト流行地タル農安方面ヨリ先ヅ三角地域内ノ鼠族間ニ搬入セラレ、其処ニ鼠ペストノ流行ヲ起シ、次デ人ペストノ流行ヲ惹起シタモノト考ヘラレルケレドモ病毒搬入ノ経路ハ不明デアツタ。

今次流行ハ9月23日ニ発生シ、11月13日ニ終息スル迄凡ソ52日ニ亘リ、其ノ間ニ28名ノ患者ノ発生ヲ見タ、患者多発地区(三角地域)ニ於テハ患者ノ発生ハ住民ノ約2.6%ニ昇ツタ。

今次流行ハ満州ノペスト常在地域ニ於ケル年々ノ流行ト同様ニ11月寒気ノ襲来ト共ニ終息シタ。

今次流行ニ於テ流行ノ発生ト環境衛生ノ関係ニ就テ先ヅ新京ノ動物環境特ニ鼠族ノ種類ト其ノ数量ノ関係ヲ調査シ、併セテ細菌学的検査ヲ行ツタ結果ドブネズミ間ノ病毒ガ人ペストノ直接ノ伝染源デアルコトヲ推論スルコトガ出来タ。

次ニ昆虫環境特ニ鼠体ニ付着セル蚤ノ種類及其ノ数量ノ関係ヲ調査シ、併セテ細菌学的検査ヲ行フ結果、鼠ペストヲ人ニ伝播スルモノハケオピス鼠蚤及アニズス鼠蚤デアルコトヲ推論スルコトガ出来タ、尚人虱ガ病毒ヲ人ヨリ人ヘ直接ニ伝播スルノデハナイカト考ヘラレル成績ヲ得タ。

尚居住環境ヲペスト患者発生ノ関係ヲ調査シタ結果、ペスト患者ハ鼠族及昆虫ノ好適ナ培養温床トナル様ナ居住環境ニ発生スルコトヲ認メタ。

次ニ統計的観察ヲ試ミタ結果、今次流行ハ従来ノ腺ペストノ流行ニ比シテペスト敗血症型ノ出現率高ク、死亡迄ノ経過日数短ク、且死亡率ノ高イノヲ特徴トシテイルコトヲ認メタ。

今次流行ノ病毒搬入経路ハ不明デアツタガ、種々ノ点ヨリ考察シテミルニ、農安方面ヨリ田島犬猫病院(三角地域内ニアル)受診ニ来タ牛、馬ノ荷物ニ付着シテ運搬サレタ有菌蚤ガ同病院ノ鼠族間ニ侵入シテ流行ヲ惹起シ、次デ三角地域ノ鼠ペストノ流行ヲ起シ、其ガ人ペストノ直接ノ伝染源トナツタモノト考ヘラレル、而シテ住民間ノ病毒ノ伝播ハ人ヨリ人ニ直接行ハレタモノデハナクテ、ドブネズミ間ニ伝播サレタ病毒ヨリケオピス鼠蚤及アニズス鼠蚤ヲ介シテ行ハレタモノト考ヘラレル。(515-31~32)

文 献

- 1) Dieudonne, A. & Otto, R.: "Handbuch der Pathogenen Microorganismen," (1928), III, aufl., 4, 179.
- 2) 倉内: 満州医学雑誌, (昭. 5), 12, 569, 671, 827.

- 3) 安東：日本伝染病学会雑誌，(昭.5)，4，411.
- 4) 春日：東京医事新誌 (昭.12)，3041，1929.
- 5) 鶴見，其ノ他：日新医学，第11年，2，(昭.3).
- 6) 春日：細菌学雑誌，(昭.14)，518，231.
- 7) 春日，其ノ他：大陸医学，(昭.16)，1，38.
- 8) 阿部：大陸医学，(昭.16)，1，3.
- 9) 飯村：日本ニ於ケルペストノ疫学ニ関スル総合的研究，内務省衛生局，(昭.4，6).
- 10) 倉岡：台湾ニ於ケルペストノ流行学的研究，台湾医学会，(大.9.3).

陸軍軍医学校防疫研究報告 第2部 第538号

昭和15年農安及新京ニ発生セル「ペスト」流行ニ就テ

第5編 流行ニ於ケル防疫実施ノ概況

陸軍軍医学校防疫学教室 (主任 増田大佐)

陸軍軍医少佐 高橋正彦

担任指導 陸軍軍医少佐 石井四郎

目次

緒言

第1章 防疫機関ノ編成

第2章 防疫施設ノ概要

第3章 防疫実施業務ノ概要

第1節 防疫要領

第2節 感染経路及伝染経路ノ究明

第3節 伝染源ノ究明

第4節 伝染源ノ剷滅

第5節 伝染経路ノ杜絶

第6節 個人防禦法

第7節 防疫実施人員ノ自衛

総括

文献

緒 言

昭和15年9月下旬満州国首都新京ニペストノ流行発生スルヤ、其ノ当初ハ市当局ガ専ラ防疫ニ当ツタケレドモ、流行蔓延ノ徴アリ、且重大事態を惹起スル惧ガアツタノデ10月5日ヨリ軍ガ主体トナリ、軍官民ヲ一体トスル防疫態勢ヲ整ヘテ、流行ノ撲滅ヲ期スルニ到リ、其ヨリ11月中旬ニ至ル迄徹底的ニペスト防疫ガ実施サレタ、其ノ間ニ行ハレタ防疫業務ハ極メテ複雑多岐ニ互ルノデ其ノ一々ニ就テ述ベルコトハ困難デアルガ、其ノ中デ将来ノペスト防疫上参考トナル様ナ事項ニ就テ茲ニ記述スル次第デアル。(538-2)

第1章 防疫機関ノ編成

今次流行ニ於テ臨時ニ編成サレタペスト防疫隊ハ加茂部隊ノ人員ヲ主体トシ、其ニ満州内2.3ノ陸軍病院ヨリ派遣サレタ軍医、衛生将校、衛生下士官、衛生兵等ヲ加ヘテ編成シタモノデ、編成人員ノ概要ヲ示セバ第1表ノ如クデアル。(538-2)

以上ノ他防疫隊長ハ民政部保健司、新京市衛生処、新京市衛生試験所、満州国赤十字社、満鉄臨時防疫委員会ヲ区処シ、新京憲兵隊、野副部隊警備隊、独立憲兵隊(満憲)、首都警察庁、新京鉄道警護隊、協和会首都本部等ノ協力ヲ得テ、軍官民一体ノ防疫態勢ヲ備ヘ、以テペスト防疫ノ完遂ヲ期シタ。

此ノ他ニ装備ノ概要ヲ述ベル必要ガアルケレドモ、之ハ各班ニヨツテ差異ガアリ、而モ極メテ複雑多岐ニ互ルノデ省略スル。(538-3)

第2章 防疫施設ノ概要

防疫隊本部ニハ始メノ期間ハ満州電業会社ノ管理局ヲ使用シ、其ノ後ハ国防会館ヲ使用シタ、本部ニ於テハ人ノ出入劇シタメニ病毒伝播ノ機会ヲ作ルコトノナイ様ニ出入人員ノ消毒ヲ嚴重ニシタ。

隔離病舎ハ市立伝染病院(千早病院)内ニ設置シ、尚其ノ1棟ニ健康隔離所ヲ設置シタ、此等ノ建物ハ人員収容以前ニ除鼠及除蚤ノ清掃ヲ行ヒ且鼠族ノ出入ヲ防止スルタメニ凡ユル除鼠設備ヲ行ツタ。

菌検索所ニハ始メハ千早病院内ノ菌検索室ヲ使用シタガ後ニハ馬疫研究所ヲ使用シタ、是等ハ既設ノ設備ヲ以テ概ネ検索業務ヲ遂行スルコトガ出来タ、ペスト菌ノ検索ニハ特別ナモノヲ必要トシナイケレドモ動物試験室ハ必ず設備スル必要ガアル、之ハ鼠族及昆虫ノ出入ヲ防止スル設備ヲ有スルモノデナケレバナラナイ、以上ノ他ニ鼠族及昆虫ノ分類及検査ヲスル室ヲ別ニ設備スル必要ガア

第1表 ペスト防疫隊ノ編成

区分\人員		将 校	下士官	兵	計	摘 要	
防 疫 隊 長	本 部	庶務	2	4	14	20	別動隊トシテ診療班（3人）警備班（10人） 經理班（8人），輸送班（48人）ヲ有ス。
		企画	3	3	2	8	
		情報	2	2	6	10	別動隊トシテ宣撫班（15人），写真班（6人） ヲ有ス。
		資材	2	9	8	19	
		研究	4	8	16	28	
		教育	2	2	4	8	
	撲 滅 部	防疫斥候	3	3	10	16	
		撲滅	2	1	10	13	
		検診	25	5	30	60	別動隊トシテ検疫班（20人），予防接種班 （30人），収容班（15人）有ス。
		消毒	1	1	10	12	別動隊トシテ瓦斬班（20人）ヲ有ス。
		検索	10	13	36	59	
		病理	2	4	4	10	
		隔離診療	2	2	10	14	
1人	2人	60	57	160	277	総 計 729人	

(538-3)

ル。

病理解剖ニハ千早病院付属ノ病理解剖室ヲ使用シタ。

屍体ノ焼却ニハ市立火葬場ヲ使用シタ。

防疫従業員ノ宿舍ニハ兵舎ヲ使用シ、尚一部ノモノノ為ニハ市内ニアル宿舍ヲ借上ゲテ使用シタ。

(538-3~4)

第3章 防疫実施業務ノ概要

第1節 防疫要領

I. 防疫本部ノ業務

1. 庶務班
2. 企画班
3. 情報班
4. 資材班

5. 研究班
6. 教育班 (以上略)

Ⅱ. 防疫実施機関ノ業務

防疫実施機関ハ防疫ノ初期ニハ隊長ニ直属シテ業務ヲ実施シテイタガ後ニハ是等防疫実施機関ノ業務ヲ統制区処スル為ニ撲滅部ガ編成サレ、撲滅部長ノ命令ニヨツテ業務ヲ実施シタ。

1. 防疫斥候隊

流行発生原因ノ調査 (病毒搬入経路ノ調査)、伝染源ノ調査、伝染経路ノ調査ヲ行ツタ、即チ小池班ハ初発患者ノ感染経路及続発患者ノ感染経路ヲ調査シ、主トシテ患者ノ発生状況ヨリ流行発生原因ノ究明、伝染源ノ究明及伝播経路ノ究明ニ任ジ、尚新京市内全般ヲ偵察シ、疑ハシキ患者及死因不明ノ病死者或ハ行路病者及行路病死者ノ摘出ニ努メ、又検査材料ヲ取得シ、病毒ノ伝播ヲ未然ニ察知シ、流行ノ蔓延ヲ防止スルコトニ努メタ。

長花班ハ流行発生地域及其ノ付近ノ鼠族ヲ蒐集シ、其ノ種類及数量ヲ検査シ、尚鼠体付着昆虫ノ種類及数量ヲ検査シ、或ハ家屋内或ハ塵埃内ニ遊離シテイル蚤ノ状況及荷物ニ付着シアル蚤ノ状況ヲ調査シ、其ノ調査成績ト鼠族及昆虫ニ就テノ菌検索成績ヨリ流行発生原因ノ究明、伝染源ノ究明及伝染経路ノ究明ヲナシタ、尚新京市内各地域ノ鼠族及鼠体付着昆虫ノ種類及数量ヲ廣ク調査シ、各地域ノペスト発生素因ノ有無ヲ明カニシタ。

宮崎班ハ自体防諜並ニ敵性行為ノ有無、ソ連ヘノ反響、流言蜚語ノ調査ヲ任ジ、主トシテ謀略の見地ヨリ流行発生ノ原因ヲ調査シタ。

2. 撲滅隊

流行地域一帯ノ鼠族ノ撲滅及病毒伝播ノ惧アル動物ノ撲滅ヲ主任務トシタ。

鼠族撲滅ノ方法トシテハ凡ユル手段ヲ使用シタ、即チ捕鼠器ヲ使用スルイロイロナ方法、殺鼠剤ヲ使用スルイロイロナ方法ヲ併用シ、或ハ鼠巢ヲ探索シテ鼠ヲ捕殺シタ、蒐集シタ鼠ハ之ヲ菌検索班ニ送付シタ。

以上ノ他各家屋ニ適スル防鼠設備ヲナシ或ハ鼠穴ヲ充填シ、或ハ住民ニ鼠ノ習性ヲ知得セシメ、凡ユル手段ヲ用ヒテ人ト鼠トノ接触ヲ絶ツ様ニ努メサセタ尚種々ノ手段ニヨツテモ鼠及蚤ノ駆除ヲ期シ難イ様ナ患者発生家屋ノ焼却ヲ行ツタ。

3. 検診隊

多数ノ検診班ヲ編成シテ夫々担当地域ヲ定メ、ペスト汚染地帯ノ検病的戸口調査ヲ行ヒ、或ハ防疫偵察ヲ実施シ、速カニペスト患者及同容疑者ヲ摘発シ、或ハ死因疑ハシキ病死者ヲ摘出シ、之ヲ収容班ニ連絡シテ隔離病舎ニ収容サセタ、之ハ伝染源ヲ芟除スル為ト病毒伝播ノ状況ヲ知ル為ニ役立つツタ。

ペスト容疑者ハ体温ノ上昇 (38C 以上ヲ標準トス)、脈搏ノ頻数、圧痛アル腺腫、顔貌ノ憂鬱状態、歩行蹣跚等ニ注意シテ摘発シタ。

尚警察隊及自治団体ト協力シテ交通遮断区域ノ監視及監督ヲナシ、又同区域内ノ住民ニ対スル物資ノ配給等ヲ指導シタ。

別動隊トシテ検疫班、予防接種班、収容班ヲ編成シテ夫々次ノ如キ業務ヲ分担サセタ。

検疫班、 新京ニ於テ農安流行方面ヨリノ降車客ヲ検診シ、以テ病毒ノ搬入ヲ防止シ、尚新京駅ヨリノ乗車客ヲ検診シ、病毒ノ搬出ヲ防止シタ。

予防接種班、 流行発生地域ヲ中心トシテ市民全般ノ予防接種ノ徹底ヲ計ツタ、尚予防接種ノ普及ヲ徹底セシメル為ニペスト予防注射証ヲ発行シテ之ヲ所持セシメ、之ヲ所持シナイ者ニハ交通ヲ禁止スル如クシタ。

収容班、 各検診班及防疫斥候隊ト連繫シ、ペスト患者及同容疑者或ハ行路病者ノ収容隔離ヲナシ、又所要人員ノ健康隔離ヲナシタ、尚防疫斥候隊及各検診班ト連繫シ、行路病死者或ハ死因疑ハシキ病死者ヲ収容シ、之ヲ病理解剖班ニ交付シタ。

以上ノ他ハ検診班ハ一部ヲ以テ長春縣ペスト偵察隊ヲ編成シ、長春縣ニ於ケルペスト発生状況ヲ調査シタ。

4. 消毒隊

患者発生家屋及有菌鼠発見家屋ノ消毒及該家屋内ノ汚染物件ノ消毒ヲナシタ。

尚健康隔離者ノ消毒、汚染地区通過人員、車両及物件ヲ消毒シタ。

次ニ自体防疫ノタメ防疫従業員ノ消毒、使用セル防菌衣及物件ノ消毒ヲナシ、尚各作業班ニ必要ナ消毒薬ノ調製及交付ヲシタ。

此ノ期間ニ使用シタ主要薬物ハクレゾール石鹼液414,000g、石炭酸184,500g、ピレトリン液180,000g、酒精18,000g、蚤取粉7,500gデアツタ。

以上ノ他昆虫ノ撲滅ヲ任務トシタ、而シテ蚤ヲ駆除スル方法トシテハ大掃除ヲシテ塵埃ヲ焼却セシメ、居室ヲ清潔ニシテ蚤ノ発生ヲ防止シ、尚蚤取粉、除虫菊ヲ撒布サセテ之ヲ殺虫シ或ハ蚤ノ刺螫ヨリ防止シ、又衣服、寝具等ヲ日光ニ曝干シ或ハ饅頭蒸利用ニヨル消毒ヲ行ハセタ、其ノ他入浴其ノ他ニヨリ身体ノ保清ニ努メサセタ。

尚患者発生家屋及有菌鼠発見家屋ハ5%クレゾール石鹼液ノ消毒ヲ以テ殺菌及殺蚤ノ目的ヲ達シタ。

別動隊トシテ瓦斯班ヲ有シ、所要ノ家屋ニ就テ毒瓦斯ニヨル鼠及蚤ノ撲滅ヲ行ツタ。

5. 検索隊

ペスト容疑者トシテ隔離病舎ニ収容サレタ患者ニ就テ菌検索ヲ行ヒ、ペスト症ナルカ否カヲ決定シ、尚流行発生地域ノ住民ノ喀痰、血液等ニ就テ菌検索ヲ行ヒ、菌保有症ノ検出ニ努メタ。

病理解剖班ト連絡シテ行路病死者及死因不明ノ病死者ノ屍体ニ就テ菌検索ヲ行ヒ、其ノ死因ヲ明カニシタ。

流行発生地域ヨリ蒐集セル鼠及昆虫或ハ新京市全般ヨリ蒐集セル鼠及昆虫ニ就テ菌検索ヲ行ヒ、

病毒ノ伝播ノ範圍及病毒侵淫ノ程度ヲ知ルニ努メタ。

其ノ他病毒伝播ノ疑アル動物、昆虫及物件ニ就テ菌検索ヲ行ヒ、病毒伝播経路ノ究明ニ対シ有益ナ資料ヲ提供シタ。

6. 病理解剖隊

行路病死者及死因不明ノ病死者ヲ解剖シテ其ノ死因ノ究明ニ努メタ。

尚ペストニテ死亡セルモノノ屍体解剖ヲ行ヒ、ペスト症ノ病理解剖学的所見及病理組織学的所見ヲ検査シタ。

7. 隔離診療隊

隔離病舎ニ収容サレタペスト患者及ペスト容疑者トシテ収容サレタ患者ノ診断的治療ヲシタ、尚健康隔離者ノ収容監視ヲシタ。

以上ノ他ペスト症ニ就テノ臨床的觀察並ニ臨床的検査ヲシタ。

別動隊トシテ外科治療班及レントゲン班ガアリ、外科治療班ハ腺ペスト患者ノ外科的治療ヲ行ヒ。レントゲン班ハ各型ノペスト患者ノレントゲン学的検査ヲナシタ。

8. 其ノ他

交通遮断ハ警察隊ヲシテ行ハセ、自治団体（義勇奉公隊）ヲシテ之ニ協力セシメタ。

尚交通遮断区域内ノ物資ノ配給ハ自治団体（協和会、義勇奉公隊、青年団、国防婦人会）ヲシテ行ハセタ。

市内ノ大掃除ニハ官衙、会社ヲ休務セシメ、全市民ヲ協力セシメタ。

予防接種ノ普及ニハ市内開業医ヲ協力セシメタ。(538-5~7)

第2節 感染経路及伝染経路ノ究明

今次ペストノ流行ニ於テ病毒ガ何処ヨリ如何ナル経路ニヨリ搬入セラレ、如何ニシテ伝播ガ行ハレタモノデアルカニ関シテハ防疫斥候隊ハ初発患者ノ感染経路及続発患者ノ発生状況等ヲ詳細ニ調査シ、併セテ謀略的行為ノ有無ヲ調査シ、尚流行発生地域ノ斃鼠ノ状況及有菌鼠ノ検出成績等ヲ考究シタ結果、今次ノ流行ハペスト流行地域（農安方面）ヨリ病毒ガ直接ニ三角地域ニ搬入セラレ、此処ニ鼠ペストノ流行ヲ惹起シ、遂ニ人ペストノ流行ヲ惹起スルニ至ツタモノデアルト推論スルニ足ル資料ヲ獲得スルコトガ出来タ、此ノ事ハ流行地域内ノ鼠族及昆虫ノ菌検索ノ結果ヨリモ明カニシテ、今次人ペストノ直接ノ伝染源ハ流行地域内ノドブネヅミ間ニ伝播サレタ病毒ニシテ、大部分ハ有菌鼠ヨリ蚤ヲ介シテ人ニ伝播サレタモノデ人ヨリ人ヘノ直接ノ伝播ハ例外的ノモノデアルコトヲ明カニシタ、併シナガラ病毒搬入ノ時期及搬入ノ方法ニ就テハ不明デアツタ。……(538-7~8)

第3節 伝染源ノ究明

防疫ノ要諦ハ伝染源ヲ速カニ発見シテ之ヲ芟除スルコトデアル、今次流行ニ於テハ鼠ペストノ先

行シテイルコトガ明瞭デアツタノデ先ヅ病毒ガ如何ナル範囲ニ如何ナル程度ニ侵淫シテイルカヲ究明スル為ニ全市内ヨリ蒐集シタ鼠族ニ就テ菌検索ヲ行ツタ、其ノ結果流行ノ初期ハ三角地域ニ相当ニ高率ニ有菌鼠ヲ発見シ、其ヨリ次第ニ周囲鼠族ヨリ菌ヲ検出シ、其ノ成績ヨリ鼠族間ノ病毒ガ三角地域ヲ中心トシテ次第ニ周囲ニ伝播セル状況ヲ明カニスルコトガ出来タ、尚鼠体ニ附着シテイルケヲピス鼠蚤及アニズス鼠蚤ヨリ菌ヲ検出シ、其ノ成績ヨリ鼠ヨリ人ニ病毒ヲ伝播スルノハ鼠蚤デアルコトヲ明カニスルコトガ出来タ。

次ニ二次の伝染源トナル俱ノアルペスト患者ノ早期発見ニ努メタ、之ニ就テハ流行地域内デハ検診隊ガ専ラ之ニ当リ、其ノ他ノ地域デハ防疫斥候隊ガ之ニ当ツタ、摘出シタペスト患者及同容疑者ハ速カニ之ヲ隔離病舎ニ収容シタ、尚行路病舎及行路病死者或ハ死因不明ノ病死者ヲ防疫斥候隊、検診隊ニヨツテ摘出シ、隔離所ニ収容シ、或ハ病理解剖隊ニ送付シテ菌検索ノ結果其ノ病名及死因ヲ決定シ、病毒伝播ノ状況ヲ察知スル資料ニシタ。

尚患者ノ発見ヲ容易ニスルタメニ死因疑ハシキ病死者ハ其ノ家族或ハ検診セル医師ヲシテ申告セシメ、尚市民一般ニペスト患者ヲ陰蔽スルコトガ恐ルベキ結果ヲ惹起スルコトヲ宣伝シ、或ハ指導階級ニペストニ関スル教育ヲナシ、ペスト患者及同死亡者ノ陰蔽ガ行ハレナイ様ニシテ伝染源ノ究明ニ努メタ。(538-8~9)

第4節 伝染源ノ剿滅

ペスト流行ノ伝染源トナルベキモノハペスト患者及ペスト屍体、有菌鼠及有菌蚤、病毒汚染物件等デアル、従ツテ流行ヲ終息セシメル為ニハ是等ノ伝染源ヲ剿滅スルコトガ必要デアルノデ茲ニ今次流行ニ於テ行ツタ伝染源剿滅ノ方法ニ就テ述ベル。

二次の伝染源トシテ重要ナ意義ヲモツペスト患者ニ就テハ速カニ之ヲ摘出シテ隔離病舎ニ隔離シ、其ノ排泄物ハ嚴重ニ消毒シテ病毒ノ伝播ヲ防ギ、又死亡セル際ハ火葬ニ付シテ病毒ノ絶滅ヲ期シタ。

行路病死者及死因不明ノ病死者ハ収容シテ剖検シ、其ノ死因ヲ明カニシタ後夫々適当ニ処理ヲシタ。

人ペストノ直接源トシテ最モ大キナ意義ヲ有ツ鼠族ノ撲滅ニ関シテハ撲滅隊ヲシテ之ニ当ラセ、凡ユル手段ヲ使用シタ、即チ捕鼠ニ関シテハ従来用ヒラレテ来タ捕鼠器ヲ多数蒐集シ、各家庭ニ貸与シテ捕鼠作業ヲ協力サセタ、其ノ他種々ノ捕鼠方法ヲ民衆ニ考案セシメテ之ヲ実施シタ、又捕鼠器ノ使用方法ヲ新聞、ラジオ等ヲ以テ民衆ニ教育シ、尚指導員ヲ派シテ捕鼠ヲ指導サセ、又新京ノ鼠ノ食性及習性ヲ調査シテ餌トシテハ油揚、牛肉等ガ良好デアルコトヲ知ツテ捕鼠能率ノ向上ヲ計リ、或ハ鼠ヲ買上ゲル方法及多数鼠ヲ捕獲セルモノニハ償金ヲ出ス方法等ヲ採用シ、或ハ強制的ニ鼠ヲ捕ラセル等ノ凡ユル手段ヲ尽シテ捕鼠ヲナサシメタ、殊ニ流行発生地域及其ノ周囲ノ地域ニ於テハ捕鼠ニヨル鼠族ノ撲滅ニ重点ヲ置イタ。

殺鼠剤ニヨル撲滅法ニ関シテモ凡ユル薬物ヲ使用シテ効果ヲ挙ゲルコトニ努メタ、殺鼠剤ニヨル

時ハ鼠ガ斃死セル後ニ鼠体ニ附着シテイル蚤ヲ遊離スルノデ流行地域デハ有菌蚤ヲ遊離シテ反ツテ危険ナ場合ガアルノデ、主トシテ流行地域以外ノ地域ニ於テ此ノ方法ニ重点ヲ置イタ、尚鼠ヲ鼠穴内ニテ斃死セシメル目的ニテ鼠穴ノ中ニ殺鼠剤ヲ入レ、外ヨリ其ノ鼠穴ヲ閉塞スル方法ヲ採ツタ、之ハ蚤ヲ遊離セシメル惧ガナイノデ極メテ良好ナ駆除法デアルト考ヘラレル、殺菌剤ニヨル駆除モ民衆ノ協力ニ俟ツコトガ大部分デアルノデ殺鼠剤ニヨル駆除法ニ就テハ新聞、ラジオ通ヂテ教育スルノミナラズ、指導員ヲ派シテ指導シタ、殺鼠剤ハ鼠ノ嗜好ニ適スル食物ニ付ケテ置イテ、其ヲ用ヒル時ニハ炊事場、下水溝、塵埃捨場等ヲ清潔ニシテ食物ノ残渣ガ散在シテイナイ様ニセネバナラナイコトヲ特ニ強調シタ。

次ニクロールピクリン、コクゾール等ノ毒瓦斯ガ鼠族ノ駆除ニ極メテ有効ニシテ且確實デアルコトヲ確メタノデ、必要ヲ認メル家屋ニ対シテハ是等ノ藥物ヲ使用シテ徹底的ナ鼠族ノ駆除ヲ行ツタ、即チ気密度ノ良好ナ良ク密封サレタ家屋デハ10~15g / m ヲ用ヒ、20時間ニテ概ネ殺鼠、殺蚤ヲ完全ニ行フコトガ出来タ、併シナガラ気密粗悪ナ満人家屋ニ於テハ縦ヘ戸障子ニ目張ヲ施シテモ屋根、壁ニ隙間多ク、20g / m ヲ使用シテモ尚効果ヲ期シ難キコトヲ認メタ。

以上ノ他家屋内ノ鼠巢ヲ探索シテ鼠ヲ捕殺スルコトニ努メタ。

次ニ鼠ベストヲ人ニ伝播スルモノハ鼠体ニ附着シテイルケオピス鼠蚤及アニズス鼠蚤ニシテ、而モ其ガ家屋内ニ遊離シ、衣服、寝具ニ附着シ、或ハ塵埃ニ紛レ込メテイルコトガ明カデアルノデ、之ヲ駆除スルコトガ極メテ必要デアル。

昆虫ヲ駆除スル方法ハイロイロアルガ、今次流行ニ於テ実施シタ方法ヲ述ベレバ次ノ如クデアル、即チ流行地域ノ家屋ヲ始め全市ニ互ツテ大掃除ヲ行ヒ、其ノ塵埃ヲ焼却シテ遊離蚤ノ絶滅ヲ計リ、尚常ニ屋内ヲ清潔ニシ、畳下ニ古新聞ヲ敷イテ蚤ノ発生ヲ防止シタ、次ニ各家庭ニ於テ被服、寝具、敷物類ヲ屢々直射日光ニ曝シテ蚤ノ殺滅ヲ行ハセタ。

藥物ニヨル蚤ノ駆除法トシテハ個人用トシテ流行地域内ノ住民ニハ除虫菊ヲ使用セシメ、之ヲ寝具、襦袢等ニ撒布セシメテ蚤ノ刺螫ヨリ身体ヲ保護サセタ、尚室ノ隅々ニ撒布シテ蚤ノ近接ヲ防止セシメタ。

患者発生家屋ノ家材、寝具、被服、其ノ他ノ物件ニハ5%クレゾール石鹼液ヲ多量ニ噴霧シテ殺菌並ニ殺蚤ノ目的ヲ達シタ。

尚必要ト認ムル家屋ニ就テハ前述セル如ク室ヲ密閉シテクロールピクリン、コクゾール等毒瓦斯ニヨリ長時間燻蒸ニヨリ家屋内ノ昆虫ノ絶滅ヲ計ツタ。

又患者ノ被服、寝具等ハ蒸気消毒ヲ行ツテ殺菌及殺蚤ノ目的ヲ達シタ、其ノ他必要ト認メルモノハ焼却滅菌シタ。

患者発生家屋ハ上述ノ如キクレゾール石鹼液ニヨル消毒ヲ行ツタ後クロールピクリン或ハコクゾールニヨル燻蒸消毒ヲ行ヒ、然ル後ニ海狸及白鼠ニヨル蚤吸著試験ヲ行ツテ、其ニ依ツテ完全ニ除蚤サレテイルカ否カラ検査シ、其ノ結果以上ノ如キ消毒方法ニテハ完全ニハ除鼠、除蚤ノ目的ガ達

セラレナイト考ヘラレタモノハ家屋ノ周囲ヲ鉄板ニテ囲ヒ、鼠族ノ逃亡ヲ防グ如クシタ後ニ焼却処分ニ付シタ。(538-9~10)

第5節 伝染経路ノ杜絶

病毒ノ伝播ヲ防グ為ニハ伝染経路ヲ杜絶スルコトガ必要デアル、今次流行ニ於テハ伝染経路ヲ杜絶スル目的ヲ以テ次ニ述ベル如キコトガ行ハレタ。

1. 患者及関係者ノ隔離

二次的伝染源トナルペスト患者ヲ速カニ隔離病舎ニ隔離シ、尚検診中ニ疑ハシイ患者ヲ発見シタ時ハ速カニ之ヲ隔離病舎ニ収容シタ、尚患者ノ発生セル家族或ハ患者ト交通ノアツタモノハ濃厚ニ汚染サレテイルモノトシテ、之ヲ健康隔離所(隔離病舎トハ別棟ニ設ケル)ニ収容シタ、隔離期間ハ患者ニアリテハ完全ニ治癒シ、他ニ病毒ヲ伝播スル危険ノ全クナクナル迄隔離シ、患者関係者ノ隔離期間ハ隔離ヲナシ、消毒ヲ完了シタ時ヨリ起算シテ満14日トシタ。

以上ノ期間隔離シタ後嚴重ナ検診ヲ行ヒ、身体ヲ消毒シ、衣服、持物等ノ消毒ヲ完了シタ後ニ隔離ヲ解除シタ。

2. 交通遮断

ペスト患者ノ発生シタ地域或ハ有菌鼠ヲ発見シタ地域ハ直チニ適当ナ地域ヲ割シテ交通遮断ヲ行ヒ、其ノ地域内ノ住民ト他地域ノ住民トノ間ノ交通ヲ禁止シタ、斯クシテ交通遮断区域内ノ消毒、鼠族及昆虫ノ駆除ヲ徹底的ニ行ツタ。

交通遮断ノ期間ハ其ノ地域内ニ於ケル発生状況鮮明シ、最早ヤ流行ノ処ナキニ至ツタ時ヨリ(最終患者ノ発生セル時)起算シテ満14日間トシタ。

尚病毒伝播ノ機会ヲ少クスルタメ学校ノ休業ヲナシ、或ハ娛樂機関ノ制限或ハ交通管制等ヲシタ。

3. 検疫

農安方面ヨリノ病毒搬入ヲ防止スルタメ新京駅ニ於テ農安方面ヨリノ降車客ノ検診及消毒ヲ行ヒ、又新京ヨリ他地域ヘノ病毒ノ搬出ヲ防止スル為ニ乗車客ノ検疫ヲ行ツタ。

4. 防疫設備

鼠ニヨル病毒ノ伝播ヲ防止スルニハ鼠間ノ交通ヲ杜絶シ、鼠ト人トノ交通ヲ杜絶スルコトガ必要デアル、之ガ為ニハ家屋ニ防鼠設備ヲスル必要ガアル、其処デ家屋ノ入口ニ鉄板ヲ低ク張ツテ鼠ノ出入ヲ防止シ、又鼠ノ通路トナル様ナ箇所(溝渠トノ通路及壁、天井等ノ穴)ハ盡ク閉塞シ、或ハ金網ヲ張ツテ鼠ノ出入ヲ防止シタ、又屋内ヲ清潔ニシ、殊ニ食物ノ残渣ノナイ様ニシテ鼠ノ出入ヲ防止シタ。

尚必要ト認メタ建物ハ垂鉛塀ヲ圍繞シ、下縁ヲ深く地中ニ埋メ、鼠ノ出入ヲ防止シタ。

5. 貨物運搬ノ禁止及制限

農安方面ニペストノ流行発生スルヤ被服、雑布、綿類等ノ新京市内ヘノ搬入ハ禁止サレテイタケ

レドモ尚其ノ実施ガ不十分デアツタノデ、以上ノ他家具、寝具、穀類等ノ搬入ヲ禁止シタ。

以上述ベタ様ナ荷物ニハ鼠或ハ蚤ガ紛レ込メテ運搬サレル危険が大デアルノデ流行地域ヨリノ搬出モ禁止シタ。(538-10~11)

第6節 個人防禦法

1. 予防接種ノ普及

ペスト・ワクチンハ他ノワクチンニ比シテ極メテ有効ナモノニシテ、而モワクチン接種ニヨル所謂陰性期ハ認めラレズ即チ流行発生セル後ニ予防接種ヲスルモ全然害ハ認めラレナイノデ予防接種班ヲシテ予防接種ヲ行ハセ、又市内開業医ヲ動員シテ予防接種ニ協力セシメタ、尚予防接種ノ普及徹底ヲ計ル為ニペスト予防接種証ヲ発行シ、之ヲ所持シナイモノハ通行ヲ禁止スル如クシタ。

2. マスクノ使用

流行ノ末期ニハ敗血症型ペスト発生シ、此等ノ患者ニハ著明ナ肺症状ヲ起シテ飛沫伝染ノ危険ガアリ、且寒氣ノ襲来ト共ニ肺ペストノ流行ヲ惹起スル惧ガアツタノデ市民ニハ外出時必ヅマスクヲ使用サセタ。

3. 身体ノ保清ニ努メサセ、又皮膚等ヲ損傷サセナイ様ニ注意シタ、又蚤其ノ他ノ吸血昆虫ニ刺螫サレナイ様ニ被服、寝具ニ除虫菊粉ヲ撒布セシメタ。

4. 民衆ノ教育特ニ指導者階級ニ対スル防疫知識ノ向上ニ努メタ(ラジオ、新聞、ポスター、パンフレット、講演、映画、展覧会等ニヨル方法)。(538-11~12)

第7節 防疫実施人員ノ自衛

患者ノ検診、収容、看護、細菌検索、病理解剖、消毒、駆鼠、除鼠等ノ作業ニ従事シタ防疫実施員ハ自衛ノ為次ノ事項ニ注意シタ。

1. 患者又ハ病毒汚染ノ場所及物件ニ接触セントスル時ハ頭巾、マスク、予防衣及ゴム長靴ヲ着テ、手ニハゴム手袋ヲ使用シタ。

2. 消毒、検診、治療等ニ用ヒタ器具、器械、被服類ハ其ノ都度嚴重ニ消毒シタ。

3. 鼠族及昆虫類ヲ駆除スル場合ニハ常ニ鼠族ニ付着セル蚤又ハ付近ニ潜伏シテイル蚤、南京虫、虱等ヲ身邊ニ付着セシメナイ様ニ注射シタ、又万一付着シタ蚤類ガ衣服内ニ潜入シナイ様ニ扮装ノ要所ヲ緊縛シ、其ノ部分ニ除虫菊ヲ撒布シタ。

4. 皮膚ニ微細ナ傷デモ負ハナイ様ニ注意シタ、若シ損傷ノアル時ハ速ヤカニ治癒ノ方法ヲ講ジ、又病毒ノ侵入ヲ防止スルタメ損傷部位ニ繃帯ヲ施シ、或ハ絆創膏ヲ貼付スル等ノ適宜ナ処置ヲ取ツタ。

5. 作業終了後ハ成ルベク入浴シテ身体ヲ清潔ニシ、清潔ナ衣服ニ更へ、含嗽ヲ励行シ、併セテ日常粘膜ヲ損傷シナイ様ニ注意シタ。

斯克シテ防疫業務ヲ終了シ、防疫隊ヲ解散スル際ニハ防疫従業員全員ノ検査ヲ行ヒ、10日間隔離シテ、異常ノナイコトヲ観察セル後ニ夫々原所属ニ復帰サセタ。(538-12)

総 括

1. 今次流行ニ於ケル軍官民ヲ一体トスル、防疫機関ノ編成ノ概要ニ就テ述ベタ。
2. 今次流行ニ於ケル防疫施設ノ概要ニ就テ述ベタ。
3. 防疫ノ実施要領ニ就テ述ベ、次ニ感染経路ノ究明、伝染源ノ究明、伝染源ノ削減、伝染経路ノ杜絶、個人防禦法、防疫実施人員ノ自衛等ニ就テ実施シタ具体的手段ト其ノ効果ニ就テ述ベタ。

之ヲ要スルニ今次ノペスト防疫ハ軍官民ヲ一体トシタ防疫態勢ニ於テ実施サレタコトニ特徴ヲ有スルモノニシテ、一朝有事ノ際ニハスカル高度防疫態勢ヲ必要トスルコトハ想像ニ難クナイノデ、斯様ナ際ニ何等カノ参考ニナラバト思ヒ不備ヲ顧ズ、此ノ記述ヲナシタ次第デアル。(538-13)

文 献

- 1) 満鉄衛生課：ペスト防疫指針，(康德2年6月)
- 2) 阿部：大陸医学，(昭.16, 1, 3)
- 3) Dieudonne, A. & Otto, R.: "Handbuch der pathogenen Microorganismen," (1928), III, aufl., 4, 179.

以上が「高橋報告書」であるが、次に載せるのは1940年10月20日付の2点、「関東軍臨時ペスト防疫隊」の発した「対策(要望事項)」および「要報」である。1940年10月10日以降同年11月7日まで、新京(長春)の国防会館にペスト防疫隊本部を設置し、731部隊が中心となって防疫活動を行なったが、この史料は比較的早い時期のものである。(2点とも吉林省档案馆所蔵)

関東軍臨時ペスト防疫隊 十月二十日 於国防会館

対策(要望事項)

- 一、寛城地区ノ一部ニ予防注射漏相当アルモノノ如シ 尚一層之カ励行ヲ望ム(首都本部指導科ノ意見)
- 二、寛城地区ノ捕鼠ハ遺憾乍ラ十分ト云ヒ難シ 此ノ方面ニ重点ヲ指向スルヲ要ス
- 三、市内ノ下水道及マンホール内ニハ多数ノドブ鼠棲息セルニ拘ラス之カ処置未ダ定カラス
- 四、隔離地区内居住者ノ生活状態中衣ト食ノ状況ニ就キ承り度
- 五、寛城地区軍用路ノ糧食補給ハ隔離期間ノ延長ヲ伴ヒ懸念ヲ要スルモノアリ至急対策ヲ要ス(首都本部指導科)

六. 市内ノ飲食店ノ巡視所見ニ徴スルニ台所及便所ハ一般ニ甚タ不潔ナリ之カ清潔法ノ徹底ニ就キ指導監督スルヲ要ス

七. 隔離地区特ニ三角地帯ニ於ケル汚物処理十分ナラス又排水路ノ掃除不良ナリ至急清掃ヲ要ス

八. [欠落]

九. 客車座席ハ総テ皮製トシ平常ハ現用ビロードヲ覆ヒ伝染病蔓延時之ヲ取除キ直ニ消毒シ得ル如クナス

一〇. 以上各項ノ要望実施シ得サレハ国都ヲ満洲国哈爾濱ニ移転スルヲ要ス

一一. 満洲国ニ速カニ衛生省ヲ設置シ同時ニ大研究所, 大隔離病院, 大消毒場ノ設置ヲ要ス

尚加茂部隊出張所ヲ長春縣城内及農安ニ設置シ軍官民ヲシテ其居ニ安ンセシムル如クナスヲ要ス

一二. 加茂部隊長ヲ民政部, 新京特別市開拓局, 満洲国土地開發株式会社, 満鉄等満洲帝国衛生開發顧問トナス意見有力ナリ

上の史料の(一一)(一二)にある「加茂部隊」は、731部隊の別称。(一〇)から、ペストの蔓延が防げなかったばあいには、満洲国首都を長春からさらに北の哈爾濱(ハルビン)に移転することも考えたことがうかがわれる。また、731部隊はそれまで5つの支部をもっていたが、(一一)から長春と農安というペスト流行地に出張所を設けることも発案されたこともわかる。農安にも731部隊は防疫に派遣されたことはすでに本稿(上)で記したところだが、長春と農安に731部隊の出張所が設置されることにはならなかった。(一二)に731部隊長石井四郎を「満洲帝国衛生開發顧問」にするとの意見有力とあるように、1940年のペスト防疫を通して石井の防疫・衛生における権威は高まったとみられるが、もちろん衛生開發顧問というような職位は実現しなかった。

関東軍ペスト防疫隊要報 十月二十日 於国防会館

一. 略

二. ペスト死亡者 真性二一 本日一 高松マサ子(腺ペスト)三歳 女

室町三丁目宝昌ビル居住中ノ処十月[1字不明]日發熱三九・三度十月二日千早病院ニ隔離中ノ処十月二十日死亡 解剖ノ結果左記ノ如キ所見ナリ

左記

一. 左右頸部淋巴腺共ニ鶏卵大ニ化膿シ波動ヲ触知スルモ竈包裹サレ治癒ノ傾向

二. 両肺多発性細葉性滲出性肺炎(ペスト性肺炎)

三. 伝染脾剖面ハ膨隆シ縮節ヲ形成ス

四. 腎實質性変性強度ニシテ出血ナク島髓質間境界不明

五. 肝實質変性ヲ示シ大キサ普通

六. 左右腋窩左右鼠剷部腸間膜淋巴腺何レモ帽針頭大乃至小指頭大ニ数個腫脹ス

七. 軽度ノ気管支炎

八. 中等度ノ扁桃腺炎

731部隊が新京・農安で獲得したペスト患者からの臓器の標本は、戦後アメリカに渡され、1991年にダグウェイ実験場で発見されたことは本稿（上）で記したところだが、この高松マサ子の標本と関連データもそのなかに含まれている。「No.22, Name-MT, Years-3, Sex-female, Days of course-21, Disease form-G [腺ペストの略号], entrance port-1-submaxillaris」というのが、アメリカの資料のなかの記載であり、臓器ごとのプレパラートをはじめ詳細な分析記録が載っている。
（了）

（経済学部教授）